

山口大学創基200周年記念

熟議 in やまぐち

知

うもれ木の郷と
山口大学剣道部の
交流活動
報告書

因



国立大学法人 山口大学

知恩とは

生かさせていただいている皆様の恩を知る、
すなわち、互いに感謝しあう精神を表わす

はじめに

吉村 誠

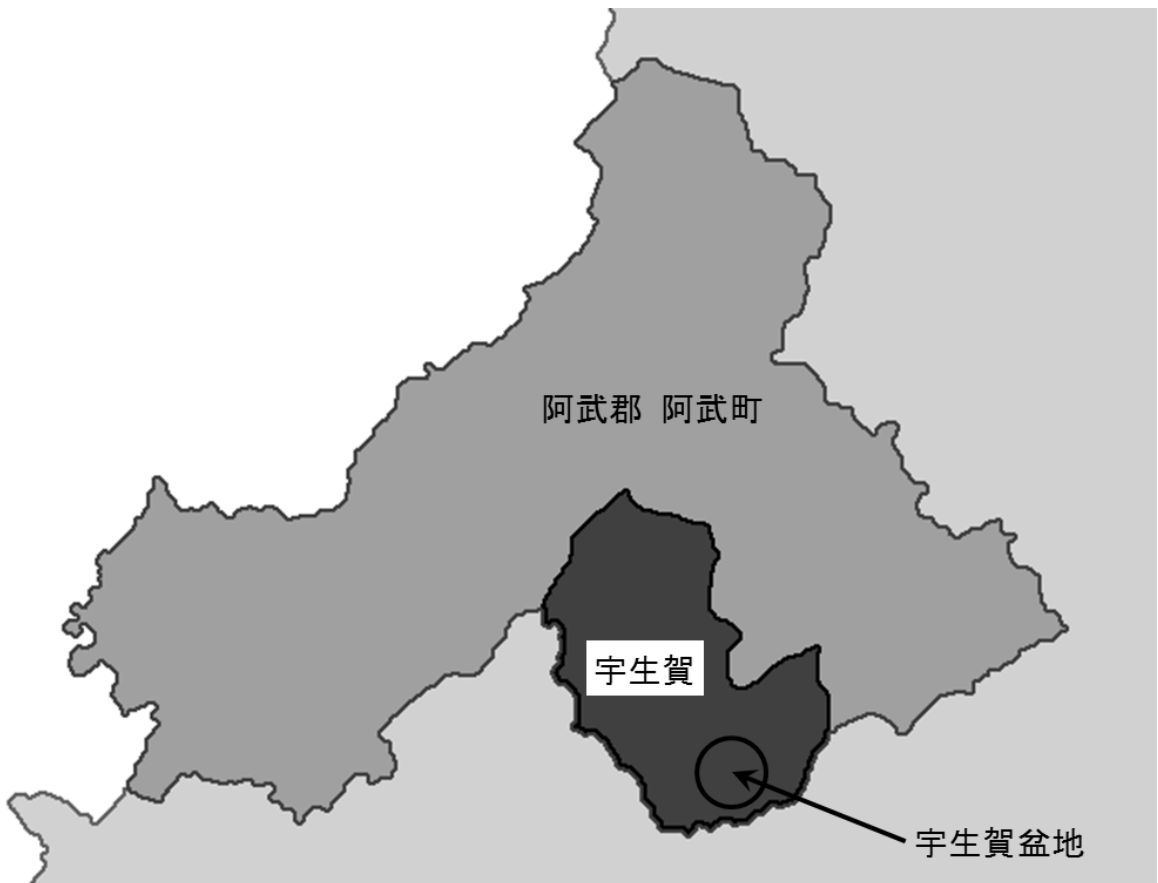
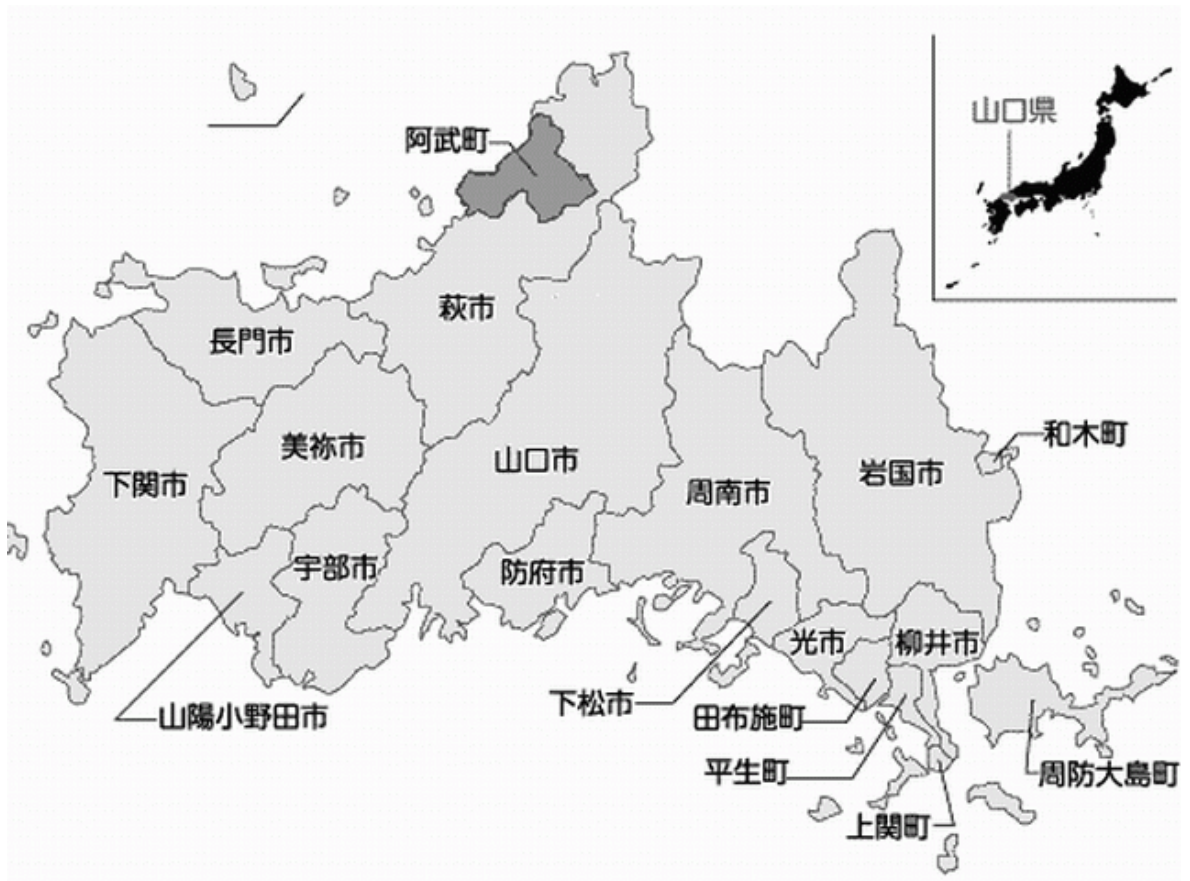
大学教育機構学生支援センター センター長

小学生の頃、田植えや稲刈りにあこがれた。親戚が農家だったので頼んでみたが、邪魔になると言って断られた。夏休みは従兄弟もいることもあり農家の親戚の家で過ごすことが多かったが、田んぼを手伝えとは言われなかった。家内の実家も農家である。結婚当初、田んぼの手伝いをしたいと言って念願の田に出たものの植えられたばかりの苗の上に一輪車ごとひっくり返った。それ以来手伝えとは言われなくなった。農協の組合長や経済連の役員もしていた義父とは飲みながらよく農政の話をした。今でも戦後農地改革は失敗だっている。小作農を開放したことはよいが、もしそのままだったら、今頃は大規模農業企業体へと発展していたのではないかと思うからである。



農業は古来国家の基幹産業であり今でも変わらない。古代貴族は天皇家も含めてその発生時期は農業の指導者であり、我が国の文化は農耕を基盤としている。若者たちがそうした文化を実地に学ぶことは重要である。武士もまた農民の武装から始まったが、特に江戸時代の萩藩では百石前後の中下級武士は知行地（領地）で暮らしており、在郷武士と呼ばれている。阿武には萩城下から遠いために在郷武士の痕跡は見当たらないが、萩周辺を中心として全県に分布している。彼らは生活の困窮もあり城での勤番以外は半士半農の生活をしていらしい。士と農は近い関係にあった。屈強な山大生達が田んぼで手伝っていると聞き、それが剣道部であることに不思議な因縁を感じる。

この交流活動は様々な意義を持っている。学生たちの農業への理解はもとより、地域の人たちとの交流を通して礼儀作法を身につけることや、未知の体験を通して自分の生き方を見つめ直す契機となることなど、参加した学生にとって貴重な体験となるであろう。農業のこの新しい取り組みの発展と、この交流活動が永続し、地域の人たちの役に立つことを願っている。



目次

はじめに	吉村 誠
1. 関係者より	
交流活動によるうもれ木の郷への効果	山本 勉生 4
交流活動のねらい	田中 敏雄 6
交流活動を見て	原 スミ子 8
緊張のその先へ	辻 多聞 10
宇生賀で生じた化学反応～目からウロコの「草の根交流」～	辰己佳寿子 12
2. 交流活動から見たもの	
地域社会、学生、そして大学教育	辻 多聞 16
宇生賀地域の飽くなき挑戦～「熟議」と「実践」の繰り返しのなかで～	辰己佳寿子 22
3. 参加者より	
ホストファミリー①池田家	28
ホストファミリー②金子家	29
ホストファミリー③尾本家	30
ホストファミリー④中原家	32
ホストファミリー⑤田中家	34
ホストファミリー⑥西村家	35
ホストファミリー⑦原家	36
ホストファミリー⑧山本家	37
剣道部3年生	38
剣道部2年生	45
剣道部1年生	52
4. 写真でみる交流活動	
開会セレモニー	60
草引き研修会	61
昼食①	62
草引き作業①	63

3会場に分かれての懇親会①	64
3会場に分かれての懇親会②	65
草引き作業②	66
昼食②	67
閉会セレモニー	68

5. 報道関連資料

うもれ木の郷ホームページ	70
山口県庁ホームページ	72
阿武町役場ホームページ	74
やまぐち農林水産ねっとホームページ	77
JAあぶらんど萩ホームページ	78
やまぐち中山間地域づくり支援サイトホームページ	79
広報あぶ 2012年7月 (No. 493)	80
山口朝日放送-Jチャンやまぐち	82
萩ケーブルネットワークー i i ネットあぶ	83

おわりに 富平 美波

編集後記

関係者より

交流活動によるうもれ木の郷への効果

山本 勉生

うもれ木の郷 代表

阿武町宇生賀地域で農業経営を行う「農事組合法人うもれ木の郷」は、農業者の高齢化が進む中、自分達の農地は自分達で守るという信念のもと農業経営の効率化を目的に設立、運営しています。

国内における米価の下落に歯止めがかからない状況であるが、世界的にみれば食料価格が高騰し、世界では餓死で亡くなる人もいます。そのような中、日本の食糧自給率は40%以下で、他の先進国と比べてもかなり低い状況であり、他国依存の構造を変えていく必要があると感じています。

現在、原発事故の影響もあり、安心・安全な農産物を求める声が高まる中、うもれ木の郷では、早くから農薬・除草剤を全く使わないJAS米・エコ100米や、農薬などの使用を半分に抑えるエコ50米の栽培に取り組み、消費者への安心・安全な米の提供にこだわっているところであります。

今回、山口大学剣道部の学生さんと交流することで、学生が地域住民とふれあい、自然と向き合うことで、人と人とのつながりや、人の温かさを感じるとともに、何気なく食べている米の生産者側の大変さや農業の奥深さを痛感していただけたと自負しております。

うもれ木の郷としても、若い世代と交流することで、集落全体に活気がみなぎり、一瞬ではあるが高齢化率が減少しました。いつもは明かりがなく静かな集落に、家の明かりが遅くまで灯り、笑声が絶えない風景はまさに交流の効果であり、いつもは顔を出さない人も積極的に顔を出すなど集落の繋がりを改めて感じたところです。

このような交流を通じて、うもれ木の郷のファンとなってもらい、農業の実態を伝える語り部となり、また、消費拡大への営業マンとなってもらえることを期待しております。今回交流体験をした学生さんは、うもれ木の郷の



家族という思いを持って、うもれ木の郷へ何度も足を運んでもらいありがとうございます。

農業経営は、単に農産物を栽培することだけでなく、このような交流が今後ビジネスにも繋がっていけば地域が活性化するだけでなく、多くの人を呼び込み、多くの人々が動くことで資金も循環していくと思っています。

最後に、うもれ木の郷は4集落を基盤に、圃場整備から農業という産業を4集落が1つとなり進めてきました。この交流が実現できたのも地域を守ろうとして、農業法人が立ち上がり、組合員一人一人の力が合わさってできたものと確信しています。「うもれ木の郷」の「木（き）」は、水田から出てきた「希望」であると思っています。今後も埋まっている希望を、うもれ木の郷ではできるだけ沢山引き出していきたいと思っています。



交流活動のねらい

田中 敏雄

うもれ木の郷 理事

うもれ木の郷は、平成9年に山口北部国営の内再編整備事業を契機に、山口県に於いては特定農業法人では第1号の設立をみました。これまでの農村社会とは大きく変貌した個人完結型農業から、4集落1農場1家族といったこれまでの地域においては考えられない取組を決断しました。決断するには今考えても驚くほどの約300以上の話し合いをし、スタートしてから今日まで15年間、農業情勢が変化する中、順調な経営ができて、小作料10アール当たり36,500円を支払うことができました。しかしながら法人化したからといって農村が抱える問題はそんなに簡単に解決できるものではありません。今日、農村が抱える後継者、担い手不足、若者の農業離れ等があり、これからの農村の発展には、まず農村を多くの人たちに開放し交流を重ね農村に多くのファンを作ることだと思います。交流の方法には数々ありますが、今、消費者のニーズにあった無農薬、無化学肥料栽培米（JAS米、エコ100米）作りがもとめられています。重労働の仕事、機械化の進まない除草作業において大変困っております。このことは農村に機械、農薬、化学肥料が無かった時代の米作りが求められており、除草作業においても人海作戦でいかなければなりません。高齢社会の農村では農家の体力が弱り、また若い人は少なく、経験が無いといったことも手伝って進みません。そんな時、体力、重労働にも耐える根性があり作業ができるといえばスポーツ選手が当てはまるのではないかと、特に大学生のクラブが適任ではないかと思っ、これまで交流のありました山口大学の辰己先生に話しかけ剣道部顧問の辻先生を紹介していただき、剣道部学生、先生、うもれ木の郷の3者での話し合いの末、この取組に理解をいただき一気に話が進みました。体力と、根性のいる大変な除草作業は、剣道部の皆さんでクリアでき、作業の対価として剣道部には何らかの支援ができるのではないかと



います。今回は、特に作業効率だけでなく交流に力を入れ、地域の皆さんには負担になるかもしれませんが、学生・先生を含めた 32 名を 4～5 人に分かれて農家民泊をしてもらい農家の皆さんとの交流がより深まればと期待しました。人は愛情によって、自分たちも変わることができ、また人を変えることができると思います。うもれ木の郷は、おいしいお米を作るだけの目的ではなく交流により、地域には若者の元気をいただき、学生さんには、多くの人との会話の機会ができ、合わせて部活への支援もでき、相互扶助の役割ができれば、お互いに交流する意味があり長く続くのではないかと思います。これまでの農村は、機械化等により人間関係も希薄な方向を歩いてきましたが、これからの農村は多くの人々に開放し、農村の良さを理解していただく機会を作ることだと思います。私は、努力しているところには、必ず応援をしてくれる人がいると信じています。今回のこの企画についても、山口県、阿武町、JA あぶらんど萩をはじめ多くの関係機関のご支援をいただき有難うございました。この度の剣道部の皆さんとの出会いは、うもれ木の郷にとっても大きな宝物であり大切に守っていきたいと思います。私達も法人という組織が無かったらこうしたことはできなかったと思います。終わりに、剣道部の皆さん方のこれからの活躍に期待し、一人ひとりの出会いを大切にしたいと思います。



交流活動を見て

原 スミ子

四つ葉サークル 代表

皆さんと共にかいた汗が、田んぼの稲を青々と生育させています。

6月16日（土）、17日（日）、この2日間、うもれ木の郷は山口大学剣道部の若者でにぎわいました。この話を聞かれた時は、安心・安全のお米を作るお手伝い、おふくろの味の野菜料理が食べられる、今流行りのグリーンツーリズムみたいだと思われたのではないのでしょうか？ところが聞くと見る、いえいえやるとは大違い、「エコ米の田の草取りは四つん這い」。16日（土）は予報通りの雨、合羽（カッパ）に田靴で田んぼの中を這いつくばっての草取り、ぬかるみに足を取られ、日頃の生活にはない中腰状態の連続。しかもどれが稲でどれが稗（ひえ）かもわからない、一緒に作業する農家のお母さん達はあつという間に先に進んでいる。少しは仕事が見えてきた2日目は前日とは打ってかわって背中が焼けつくような炎天、田の草取り雨でも晴れでも大変な作業でしたね。



この2日間の食事を任された四つ葉サークルの私達は、この地の野菜をふんだんに使い、思いっきりおふくろの味を出そうと練りに練ったんです。案の定、きつかった労働の後の若者の食欲は私達を一気に感動させてくれました。「白いむずびがこんなに美味しいなんて」、「米粒ひとつひとつが甘い」、「この豆腐、醤油をかけなくても美味しい、しかも香りがある」、「こんな料理を私も作りたい」、「おばあちゃんの味がする」気持ちがスカッとするほどの食欲と口々に発せられるほめ言葉は、安心・安全でおいしいものづくりを目指す私達の最高の嬉しさでした。

食べるだけではありませんでした。懇親会や各家庭での民宿の会話で、あなた達は、農業・人生に感心と畏敬の気持ちを持ち始めていました。安心・安全の背後には、想像を絶する農家の人達の黙々とやり続けるつらい労働が

あること、これからの日本の農業のあり方、例えば、法人化・ブランド力・TPP 参加のこと、また楽をせずコツコツと丁寧に生きる生き方、来年も後輩達にこの活動が続いてほしい事など、たった 1 泊 2 日のこの体験が、若者たちに何かを感じさせたとするなら、私達はそれで大満足です。

ありがとうございました。

また、是非会いましょう。

「青田波 聖者の如く 鷺のゆく」



緊張のその先へ

辻 多聞

学生支援センター 講師

あるとき、辰己佳寿子先生より「阿武町の草引きができる元気な学生、心当たりありませんか？」と声をかけられた。「〇〇とかなら結構元気だと思いますよ（辻）」、「いやあ、なんていうかなあ…（辰己）」、いまひとつ合点がいかない様子であった。そして福賀大農業祭当日、「この前の話なんだけど、剣道部でどうです？こちらがうもれ木の郷代表の山本さん、こちら『剣道部』の辻多聞先生」。もうこの段階で辰己先生のがぶり寄り切り勝ち（笑）である。私も剣道部を連れて行く覚悟を決めた。



と、ここでもう一度考えてみた。なぜ辰己先生は剣道部にこだわったのだろうか、他のサークルと剣道部の違いは何なのか？伝統、礼儀、規律…確かに剣道部には他のサークルにはないものがある。しかし、私が属していた時と比べると、それらは時代の変化、感性の変化とともにかなり緩和されている。うもれ木の郷や辰己先生の期待に応えられるくらい十分なものなのだろうか。我が剣道部員が、地域社会とふれあう貴重な経験にご指名いただいたこと、彼ら彼女らがより成長できる機会を与えてくださった喜びを感じるとともに大きな不安を感じたのも正直な気持ちである。しかし剣道部員は、時代は異なれど道を究めんとする究道者であるはず、地域の人、そしてこの貴重な機会を大切にしないはずはない、剣道部員を信じた。長くうもれ木の郷と携わり、地域社会にはいつていくにはどうしたらよいのか、地域が開かれるにはどうしたらよいのかを探求されている辰己先生には、直感的に究道者の必然性に気付かれていたように思う。

作業の最中、部員は大きな声を張り上げ活気づいている。地域の人たちも和やかに、その風景を見てくださっている。歌いだす部員もいた。地域の人がそれを聞いて笑ってくださっている。食事などでの着座、おはしの出し方

など、それなりにちゃんと礼儀をわきまえて行動しているようだ。昼食、交流会、地域の方々と剣道部員が話しをしている。準備、後片づけなど、私が何も言わなくても彼らは率先して動いている。100点ではないにしろ、彼ら彼女らが、そこに敬愛すべき人がいることをしっかり感じとりながら、この機会を楽しんでいることは見てとれた。「良かったあ」、信じているといいながらも、実際の現場を見て本当に安心した。さらに、この交流活動後における地域からの称賛の声、本書にも示されている賛辞を聞いて読んで、山口大学剣道部員を誇らしく思った。

さて、帰りのバスのなか、宇生賀盆地を1周しているときは、「ここがうちらが草引きしたとこだよねえ」、「まだこんなに田があるの？大変じゃん、僕ら大した仕事できてないんじゃないかあ…」、などと声があがっていた。宇生賀を離れたとたんバス内は、しんと静まり返った。ほとんど全員が眠っている。その日の作業は午前中のみ、帰りのバスの時間は太陽照りつける日中、通常で言うなら眠いという感覚は生じにくい。両日の作業の疲れもあるだろうが、彼ら彼女らは、本当に緊張していたのだろうと思った。

こうした緊張感をもつこと、経験することが、学生にとって非常に重要であると私は思っている。肉親ではない他人と接するという事は本当に難しく、緊張すべきものである。私の母がこんなことを話してくれたことがある。

「私が人生で最も緊張をもって接したのはお父ちゃんよ、でも最も喜びを与えてくれたのもお父ちゃんなの」。母からすると父は血のつながりのない他人なのである。別に私の両親は不仲であったわけではない、むしろ近所でも評判のおしどり夫婦であった。緊張のなかにこそ、本当の喜び、学びがあるのでないだろうか。そして緊張が深ければ深いほど（がちがちに緊張しているという意味ではない）、喜びや学びは大きくなるのではないだろうか。

疲れてバスで眠っている学生の寝顔を見て、彼ら彼女らにとってこの交流が学び多き機会であったろうことを感じていた。

このような貴重な交流会に関係させていただけたことに対して、うもれ木の郷の皆様、関係者各位、辰己先生、そして学生たちに感謝の意を表します。

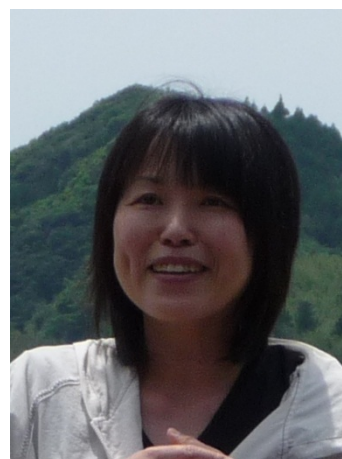
宇生賀で生じた化学反応～目からウロコの「草の根交流」～

辰己 佳寿子

エクステンションセンター 准教授

初夏の日差しがまぶしい6月17日。宇生賀に入ると、あいかわらず、美しい田園が広がっていた。しかしながら、その日は何かが違うのである。田んぼのなかでウゴウゴと動く人々、なんと、高齢化率の高い宇生賀に若者がいるではないか！

そう、16日と17日は、山口大学の辻多聞講師をひきいる剣道部が、草引きのお手伝いをするために、1泊2日で、宇生賀に滞在していたのである。私は、所用があり、17日の最後の場面だけにお邪魔したわけであるが、汗だくで、「きつい」と言いながらも、笑いながら、田んぼからあがってくる学生たちをみると、胸がキュンとなった。なぜなら、ここに、本当の「草の根交流」があったからである。



私が宇生賀の人々と最初にお会いしたのは、2006年だったと思う。当時の私は、日本の農山漁村が置かれている危機的な状況をなんとかしなければ、と躍起になっていた。だから、何かできないか、何か貢献できないかと考えていて、今思えば、傲慢で生意気だったと思う。そんな私を平然として受け入れてくれたのが、宇生賀の人々であった。

振り返ると、これまでいろいろやってきた。もちろん、福賀大農業祭りには、毎年参加しているが、その他には、2006年には国際開発学会学会員の視察を引き受けてもらったし、JICAの海外からの研修員や、関東方面から訪れる研究者の視察をお願いしたこともある。2009年には農山漁村文化協会の取材でお邪魔をしたし、2010年には、四つ葉サークルのみなさんと山口大学の公開講座を宇生賀で開催した。ほとんど、私からのお願いごとばかりである。

その間、ちよくちよく、宇生賀にはお邪魔をして情報交換も行ってきた。今回の草引き交流についてもたわいもない会話からだった。「こういうのはできんだろうか?」「運動部でやってくれるところはないかねえ?」とのア

アイデアが山本勉生組合長と田中敏雄事務局長から話があった。2011年10月25日であったと記憶している。その時は、半信半疑で、単なる話題のひとつと思っていたが、その後、「あれはどうなったかねえ？」といわれて、「本気だったんですか？」と、私は失礼な回答をしたような気がする。

今だから言えるが、当初、「さて困った…」というのが正直な心境であった。紹介するにあたっては、誰でもよいというわけではない。お世話になってきた方々に対して間接的に機能的に誰でも紹介できるわけない。そう考えた私の脳裏に浮かんだのは、辻多聞先生であった。辻多聞先生は、ある時期から、毎年、福賀の大農業祭りに一緒に同行していて、なぜか阿武町の福賀に馴染んでいたのがあった。ものづくりが得意なオタク(?)と思っていたが、剣道部の顧問であったと聞いたことがある。藁をもつかむ思いで打診をした。

快く相談に応じてくれた辻多聞先生は、「〇〇や■■の組織なら、可能性が高い」と言ってくれたが、私は、辻多聞先生をひきいる剣道部がよいと強く押した。紹介を通じていろいろな人々に出逢うことも大事だが、今回の交流事業は、宇生賀が初めて私にお願いをしてきた案件であったから（これまで私がお願いをしてばかりだったため）、慎重に進めなければならなかったのである。

そして、12月末頃だったと思うが、田中事務局長と尾本さんが山口大学に来られ、辻多聞先生にお引き合わせした。辻先生にバトンが渡ると、話はとんとん拍子に進んでいき、6月に実現したのである。

当日、田んぼからあがってくるみなさんの姿をみて、正直、私は「これなんだ！」と感じた。つまり、農村の再生やむらづくりは、外部の人間が何かを仕掛けて進めるものではないのだ。地元の方々が、自分たちで考え、試行錯誤かもしれないけど、主体的に進めていく、それが一番大事なことなのだ。頭の中でわかっていたつもりだったが、所詮、机上の空論であった。それを、宇生賀の人々と山口大学の剣道部の学生が背中で示してくれたのだ。宇生賀の人々と学生たちの間に何らかの化学反応が生まれていた。宇生賀の懐の深さと学生の潜在力のようなものを感じ、「目からウロコが落ちる」というのは、こういうことなんだと実感した。結局、客観的に振り返ると、私自身はカラまわりしていたような気がする。意味もなく、いろんな場面で顔を出しているが、この歴史的瞬間をつないだ媒体役として、そしてこの瞬間に感銘を受ける観客役として、まあ、私のようなトンチンカンでカラまわりする人間が、ひとりぐらいいてもいいじゃないか、と許していただきたいと願う次第である。



交流活動から見たもの

地域社会、学生、そして大学教育

辻 多聞

学生支援センター 講師

1. はじめに

2010年6月より文部科学省は全国150ヶ所以上で熟議の取り組みを行ってきた。熟議とは、『多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって、課題について学習・熟慮し、議論をすることにより、互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、解決策が洗練され、施策が決定されたり、個々人が納得して自分の役割を果たすようになる』ことを意味する（文部科学省）。2012年3月に山口大学で開催された「熟議 in やまぐち」が開催された。ここにおいて「社会を元気にする人材育成」に関する討議が全11テーブル中3テーブルにて行われた。3つのいずれのテーブルにおいても「地域との連携」がキーワードとしてあげられた（辻 2012）。複雑多様化する社会に対して、いわゆる講義だけの大学教育では、社会が求める人材を育成することが困難であると、大学関係者だけでなく多くの人が考えているという結果である。

当たり前ではあるが地域社会は大学などの教育機関ではなく、学生を教育する義務もなければ、学生の「学びの種」をそうであるとして提供する必要もない。また地域社会には学生に学びの場を提供するという視点だけでは、その開放に値するメリットが全くといってよいほどない。学生との交流が「地域の活性化」につながる何かとなる、という位置づけを地域社会に感じてもらわなければならない。

地域社会と学生、この両者の架け橋となる大学は、両者のメリットを十分に考慮しつつ連携を深めるコーディネート・支援を行っていかなければならないであろう。加えて地域社会より提供していただける「学びの種」に対して、学生自らがそれを得られる環境をつくり、能動的に「学び」を見出せるよう大学は教育をすすめていかなければならない。

2. 最終ゴール（目指すところ）

地域社会が求めるものは、地域の活性化であると考えられる。そこには、若者の感性や活力の地域浸透や、この若者たちがいるから私たちも頑張ろうとい

う意欲の向上などという短期的なものから、後継者育成、もしくは今後の日本を担ってもらいたいという世代継承などの長期的なものまで含まれる。この長期的地域の活性化に関する具体的な方法は、地域社会から学生へメッセージを伝えることではないだろうか。一方で学生が求めることは、当日や直近の糧といった短絡的なものもないわけではないが、やはり自身のキャリア形成につながる感性の育成が一番であると思われる。

しかし、こうした最終ゴールにいたるまでには、2つの段階を順に経なければならぬと考える。以下にその段階を紹介する。

3. 第一段階

学生を受け入れる地域社会は大きな不安と緊張を抱えていることが予想される。その不安や緊張の根幹は、見知らぬ人が来るということはもちろんであるが、世代間の感性の相違、これまでの生活環境の違いから生じる感性の相違であろう。そして、これらの根幹を払しょくするコミュニケーションを自分たちができるか、ということである。一方で学生も同様の不安や緊張を抱えているはずである。しかし一般に地域社会の人々よりも学生のほうが年下であることが多く、また互いの最終ゴールを比べても学生が得る効果のほうがはるかに直接的で大きいと思われる。よってまず学生側が「交流させていただく」という謙虚な姿勢で接する、言い換えるならば「礼儀正しく」接するのが道理であろう。率先した学生側の良好なマナーによって、地域社会と学生との本当の意味での交流が始まるとと思われる。

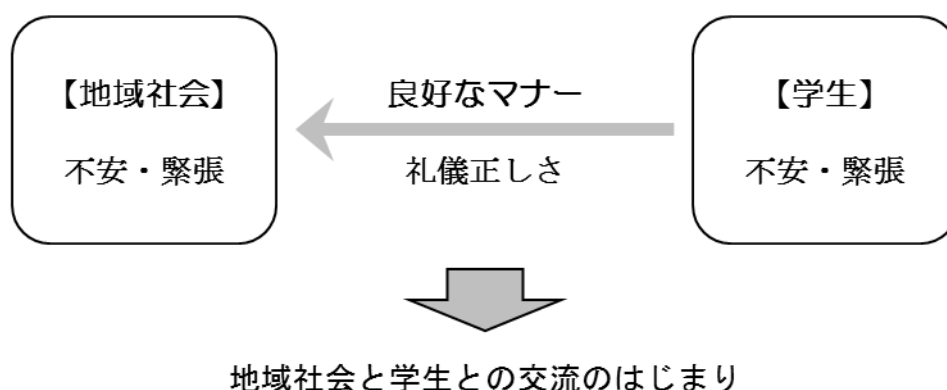


図1 地域社会と学生との交流のはじまりまでの概念図

4. 第二段階

地域社会は「お客様を迎える」というもてなしの心が強く働いているに違

いない。こうしたもてなしの心に対して、明確な言動にて学生が喜びや感謝を示すことは、大変重要なことである。そうした学生の姿は、「若さ」、「素直さ」、「明るさ」という形で地域の人々に映るであろう。これらが地域社会に好印象を与えることは言うまでもなく、地域社会に活力をもたらすことにもつながる。そして地域社会が感じるであろうこうした好印象によって、地域社会はさらに学生との交流を深めたいという感情につながっていく。すなわち、地域社会と学生との間の良好なコミュニケーションが、相互作用によって両者の距離を縮めながらより深い関係へといざなうことになると思われる。

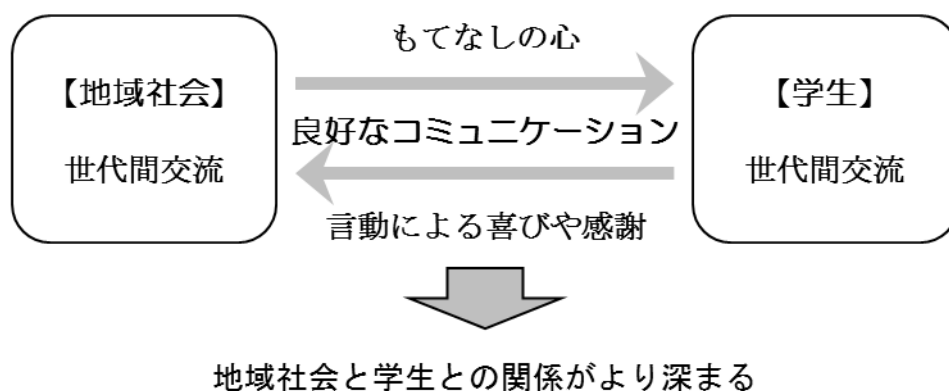


図2 地域社会と学生との関係がより親密となるための概念図

5. 大学の役割

大学は、地域社会と学生の両者の架け橋という役割を担っている。まずは、地域社会の状況や要望をしっかりと聴取し把握しなければならない。その地域に出向き交流を深めながらの調査も積極的に行っていかなければならないであろう。一方で時代によって変化する学生の感性、気質などの状況も把握、分析しておく必要がある。地域社会と学生との連携がとる際は、こうした調査・分析をもとに、両者の状況や要望を見極めつつ、両者が納得できるよう（双方に有益な結果が得られるよう）大学が「コーディネート」していくことが肝要であると思われる。

6. 大学教育

上記に示したように、大学は地域社会に学生の状況を伝え、理解してもら

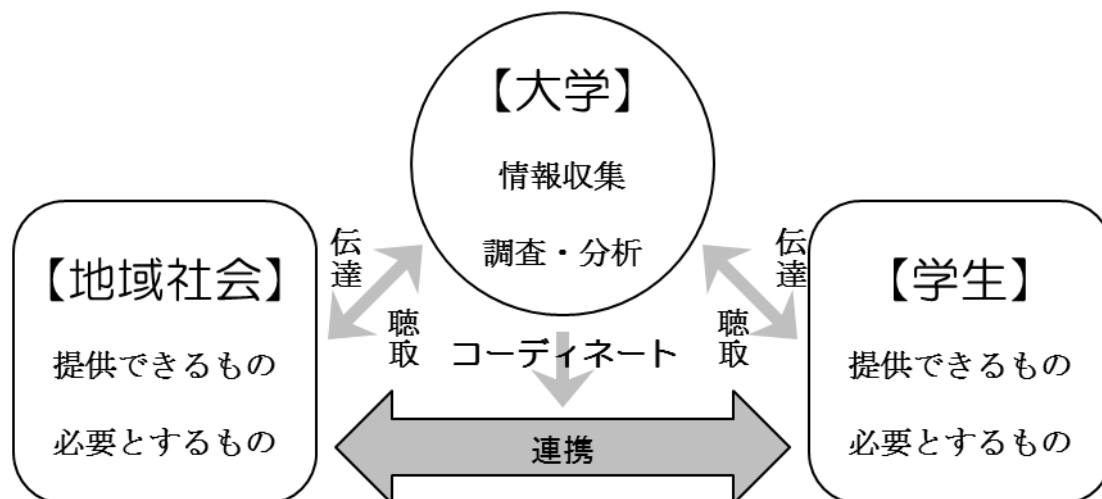


図3 地域社会と学生との連携における大学の役割

えるよう努力することが必要となる。しかし教育機関として地域社会が求める学生となるよう教育・指導すること、そして社会が求める人材となるよう学生の成長に対して教育・支援することが最も重要な責務の一つである。

地域社会と学生との連携に対して大学教育がまずなすべきことは、「マナー指導（礼儀指導）」であると思われる。メディアによる情報、大学に寄せられる市民からの苦情、そして現状の大学生を見る限り、一般の大学生は、地域社会が門戸を開こうとするのに十分な「マナー（礼儀）」を有しているとは言えないように思われる。もっと「マナー（礼儀）」の重要性を大学教育で行っても良いように思う。また大学教育だけでなく初等・中等教育でもより「マナー（礼儀）」教育を充実させていっても良いのではないだろうか。

次に大学教育として考慮すべきことは「コミュニケーション力および感性の育成」であろう。コミュニケーションは大きく分類すると言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの2つに分類できる。一般にコミュニケーションという言葉がイメージされがちである。しかし、電話やメールなどを除く一般的なコミュニケーションは言語・非言語の両方で行われている。言葉遣いの指導、敬語の指導といった言語コミュニケーション指導に加え、非言語コミュニケーションにも着目すべきであろう。上記のように、地域社会と学生の関係は、学生の「素直さ」、「明るさ」、「若さ」によってより深まる。これらはまさに非言語コミュニケーションと言えよう。非言語コミュニケーション能力の育成に欠かせない要因の一つが「感性」である。感性を向上させる方法の一つとして、「本物に触れる」ことがあげられる。例えば、模擬刀を手にとって見るときの心構えと真剣を見るとき

構えは、安全性の違いもあって明らかに異なる。真剣の持つ迫力・魅力は、例え素人であっても、そうした心構えもあって十分に感じることができる。一方で「本物」を素人に触れさせることには、例にあげた刀でもそうであるように、危険（傷害・損壊の危険）があるのも確かである。大学は研究機関でもあることから、そこにあるすべては「本物」のはずである。しかし、危険を配慮して「本物」を学生に提供することが少なくなっているのではないだろうか。学生の感性の育成に関して「大学教員が学生と真剣に向き合う姿勢」これが重要な事項の一つであるように思われる。

地域社会による最終ゴールの形の一つである「学生へのメッセージ」、これを学生が受け止め、理解できるよう大学はもちろん教育を進めなければならない。しかし理解まででは不十分である。そこから今後の大学生活そして自身の人生への目標や礎を見出すことが、学生の最終ゴールである「自身のキャリア形成」にはほかならない。すなわち経験から振り返り、新たな目標を

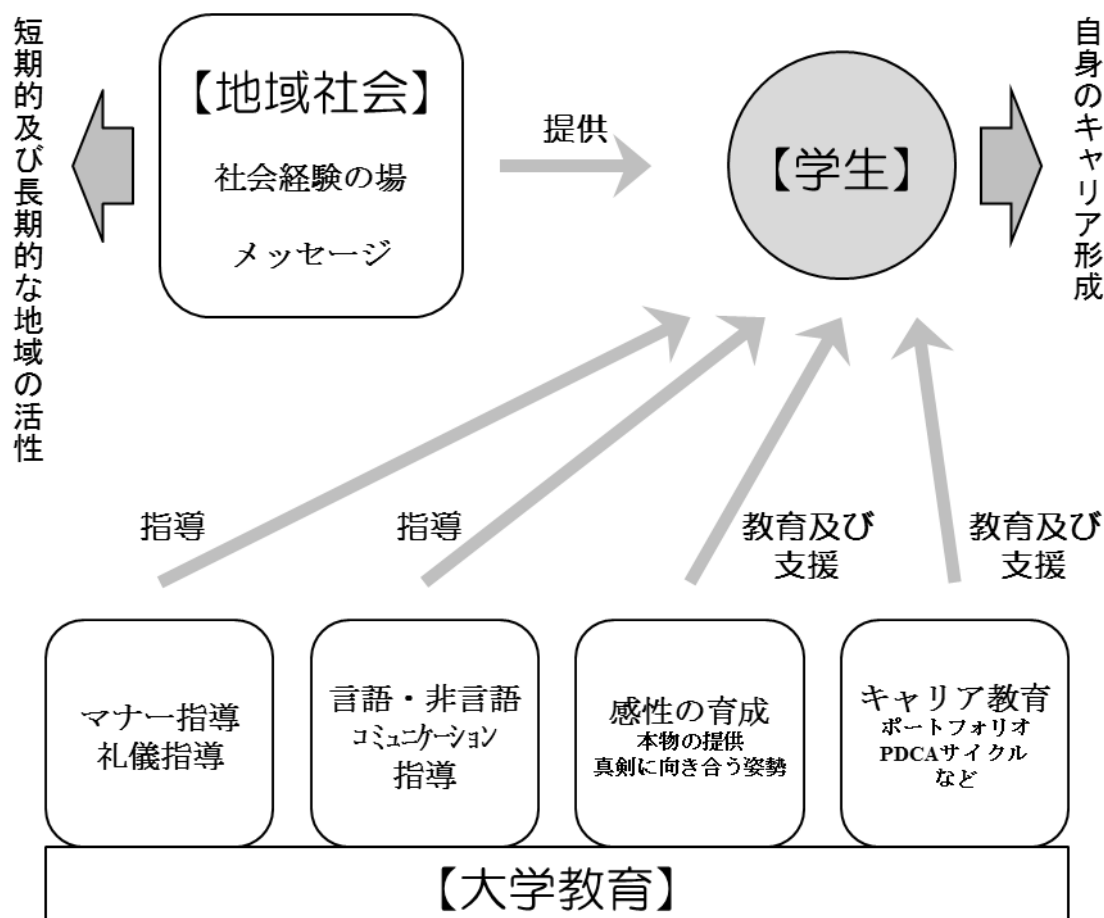


図 4 教育機関としての大学の役割と学生のキャリア形成に関する概念図

策定する PDCA サイクル（Plan-Do-Check-Act サイクル）が回るような教育、そして学生が自らそのサイクルを回せるよう支援していくことが大学に求められている。例えば近年多くの大学で導入されているポートフォリオ（振り返りシート）は PDCA サイクルの慣習化につながるであろう。また 2011 年より義務化されている大学でのキャリア教育には、就職するためだけの教育にとどまらず自己目標設定することの重要性を学生が感じるよう配慮していくべきであると考えられる。

7. おわりに

現在大学での課内学習だけでは、学生は社会における人材というニーズに十分応えられなくなりつつある。2012年6月に実施された「うもれ木の郷と山口大学剣道部との交流活動」のような地域社会による教育の場の提供は、大学として感謝すべきことであると同時に、地域社会が受け入れるに値する学生の教育を大学内にて十分おこなっていく責務があると思われる。このような地域との連携を大学は注視・継続するとともに、より拡充していく必要があるように思われる。

参考文献

- ・ 文部科学省, <http://jukugi.mext.go.jp/> (最終アクセス 2013/01/25) .
- ・ 辻多聞 (2012), 社会を元氣する人材育成とは, 熟議 in やまぐち報告書, pp. 41- 43.

宇生賀地域の飽くなき挑戦～「熟議」と「実践」の繰り返しのなかで～

辰己 佳寿子

エクステンションセンター 准教授

1. 宇生賀地域の概要

阿武町は山口県の北部に位置している。人口は 3,773 人、高齢化率は 43.94%（住民基本台帳 2012 年 3 月 31 日現在）で、阿武町は、1955 年に奈古町、福賀村、宇田郷村の 3 ヶ所が合併して誕生した。北部は日本海に面し気候が比較的温暖な「奈古地区」、「宇田郷地区」と標高約 400m の準高冷地に位置し冬季には積雪の多い「福賀地区」からなる。平成の合併協議においては単独町制を選択した。宇生賀（うぶか）地域は、「福賀地区」に位置し、「一目百町歩」といわれるように周囲をなだらかな山麓に囲まれた盆地である。4 つの集落（黒川、上万、三和、伊豆）がある。73 戸 113 人、平均年齢は 68 歳である。宇生賀地域には、農事組合法人、四つ葉サークル（女性組織）、宇生賀中央自治会という組織がある。

2. 宇生賀地域の挑戦

かつて新生代の火山の噴火によって生じた堰止湖に湖成層が堆積して生じたといわれており、標高は約 400 メートル、面積は約 1.3 平方キロメートルである。土壌は、地下 30 メートル程度までおよぶ湖成堆積物からなり、その昔は「深田」とも呼ばれるほどの湿田で畑作は困難な状態であった。

大正初期に、県営第 1 号の耕地整理を実施し、1 区画概ね 20a の圃場となったが、それでも大型機械は入らない状況であった。宇生賀は、もともとは湿田で、畑作物の作付が難しく、水稻栽培も作業効率が悪く、生産コストが低い地域であったため、農地の利用調整や組織営農活動の必要性に迫られていた。

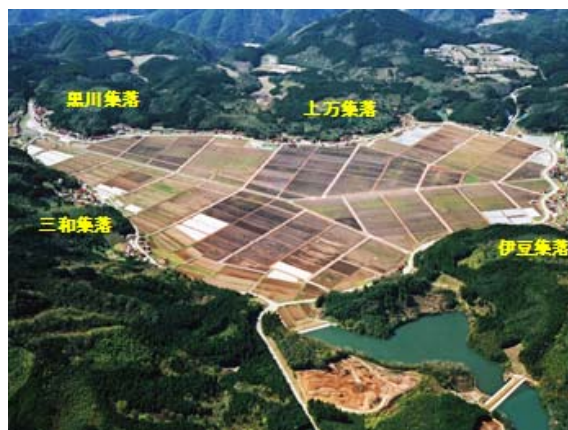


図 1 宇生賀地域の 4 集落

1990 年に「明日の宇生賀を考える会」

を發足し、地域の農業についての議論が始まった。1991年の国営山口北部農地再編パイロット事業では、償還金の負担で反対意見があったが、300回以上の話し合いの末、圃場整備後の受け手の問題、各償還金の問題、農家の高齢化の問題等を組織的に対応しようと、1996年、「宇生賀農事生産組合」を設立した。その後、農業の問題解決のために法人化に向けての軌道修正が行われた。

法人移行には、各戸の水権利と所有機械の放棄が大きな問題となった。ここでも、また、数百回の話し合いが行われ、1997年に特定農業法人が設立したのである。この地域には湖底時代の樹木が埋まっていたため、法人の名称は「うもれ木の郷（さと）」となった。全国で20番目、山口県では初の特定農業法人であった。所有農地の大部分を法人に預け、トラクター、田植え機、コンバインなど農業機械は全て共有で、組合農家のコストダウンを実現した。米と大豆においては経営一元化で効率化を図る一方、施設園芸部門（スイカやほうれんそう等）では、個別農家の独立採算制をとっている。

「うもれ木の郷」の法人設立により農作業の省力化・効率化がすすみ、女性たちにも時間的、肉体的、精神的なゆとりがみられるようになった。そこで、4つの集落の女性たちが協力して1997年には「四つ葉サークル」が結成された。活動は、小物野菜等の産直活動を行う「生産クラブ」、豆腐の製造や漬物加工等を行う「加工クラブ」、花の栽培運動等を行う「環境クラブ」、交流事業を通じて所得向上をはかる「交流クラブ」の4つの部門に分かれている。四つ葉サークルは1999年～2001年に集落点検を実施している。集落点検とは、集落の現況と、集落をこのまま放置しておいたら10年後にはどうなるかという予測を、各世帯の聞き取りをもとに作成し、そのうえで集落が10年後どうありたいかという構想を立てる。まさに、現代版の「熟議」であり、



図2 集落点検の様子

(みんなで集落を歩き、地図を作り、課題を發見し、地域の将来を構想する)

みんなと議論をして問題を発見し、その解決に向けて取り組んでいく姿勢をもっているのである。集落点検は、住民自らが行う点に特徴があり、住民の主体的な実践と不可分である。このとき、四つ葉サークルは、宇生賀地域の地域資源を示した「お宝マップ」と地域全体の将来構想「夢マップ」を作成した。現在では、夢マップのほとんどが達成されているが、唯一、担い手問題だけが懸案の課題として残っている。

「農業を守るだけでは、農村は守れない」との意向から、宇生賀地域では、2010年3月、4つの集落がひとつとなる宇生賀中央自治会が発足した。主な活動は、地区の親睦と相互扶助、健康・福祉の向上、地域の環境整備（道路河川清掃）、行政との連絡調整等である。特徴的なのは、3つの組織がほぼ地域を包括して重なっており、それぞれが複数の役割をもち、状況に応じて役を演じながら地域社会の機能を保っていることである。宇生賀地域は、老若男女問わず、みんなで話し合いながら地域づくりを行う風土をもっている。

自治会発足後、法人ではできなかったことやこれまで先送りにしてきた地域づくりの活動に挺入れをしようという動きが起こったのである。第1弾として、2010年10月には山口大学の公開講座「生活視点から地域づくりを考える～女性の力で地域をつくる～」を宇生賀地域で開催し、ワークショップを行った。第2弾が2013年6月の山口大学剣道部との草引き交流事業である。



図3 公開講座の様子

(地域内外の人々で宇生賀地域の良いところについて意見交換)

3. 宇生賀地域の交流事業

阿武町では、UJI ターン推進のために、グリーン・ツーリズム等の都市と農村交流や新規就農・就漁をはじめとするリクルート活動を強化するとともに、定住奨励金の交付、空き家バンクの充実、定住アドバイザーを任命している。阿武町全体でみると、新規定住者は増えつつあり、2006年から50世帯近くが

定住している。2008年4月に阿武町役場が宇生賀地域で行ったアンケート調査によると、多くの人が「人が増える」ことを望んでおり、「若者がいない」ことが問題点としてあがっている。宇生賀地域では、法人や女性の活動への視察は頻繁に受けているが、新規定住となると話は異なる。現実には「交流→滞在→定住」というモデルのようにはいかないのである。

定住とまではいかないとしても、対外的な取り組みとしての第一歩は交流である。「うもれ木の郷」では、消費者との交流（収穫祭）や販売協力店との交流など試行的な取り組みを行っている。しかしながら、これらの交流はあくまでも農産物の推奨販売活動であり、農業・農村の担い手問題等にはつながっていない。ゆえに、宇生賀地域では、どのような交流事業を行っていくべきかということが論点となっていた。「交流事業が先にありきではなく、農業問題に接近する事業に交流を絡めることはできないか」「地域がサービスするだけの一方通行の交流事業ではなく、双方向で相乗効果が見込める交流ができないだろうか」という意見が出された。困難な課題を克服してきた宇生賀地域では、いわゆる「熟議」の土壌が培われていた。

意見交換を繰り返すうちに、山本勉生組合長から、「うもれ木の郷のエコ100米は、完全有機農法で育てるお米。農薬を一切使わないから水田に雑草が生える。この草引きもぜんぶ人の手でやらんにゃいけんのんよ。それがたいへんでねえ。どねえかならんか！」という提案があった。「うもれ木の郷」では、安心・安全の農作物を育てており、その一環として、昨今、無農薬無科学肥料のエコ100米に挑戦し始めたところであった。これを育てる田は5haあり、そこに生えた雑草の草引きは組合員にとって重労働となっていた。そこで、「学生に農作業を手伝ってもらうことはできんか?」「体育会系の山口大学の部活動の一環として農作業を行ってもらえば一石二鳥なのでは?」

表1 宇生賀地域での課題と夢

現在困っていること		将来の夢	
動物被害	46	人が増える	43
高齢化で草刈等が大変	18	風景・自然環境	27
外灯が少ない	17	交通整備	9
除雪・凍結	11	お店・コンビニ	6
交通が不便	11	昔の知恵の伝承	4
若者がいない	7	仲の良い集落	2

(全戸が回答、複数回答)

(全戸が回答、複数回答)

「ただ働きではない。草引き費用は毎年計上しているの、学生にとってもよいアルバイトにもなるのでは？」という案が生まれたのであった。

これまで、阿武町では、個人的なネットワークで山口大学の学生がイベントにかかわることはあったが、継続的な展開には至らなかった。学生は4年間で卒業するため流動的であるが、部活動というかたちで学生の組織とかがわっていけば持続的であるという結論に至った。

熟議と実践を繰り返すなかで、山口大学剣道部に白羽の矢が立ったのであった…。

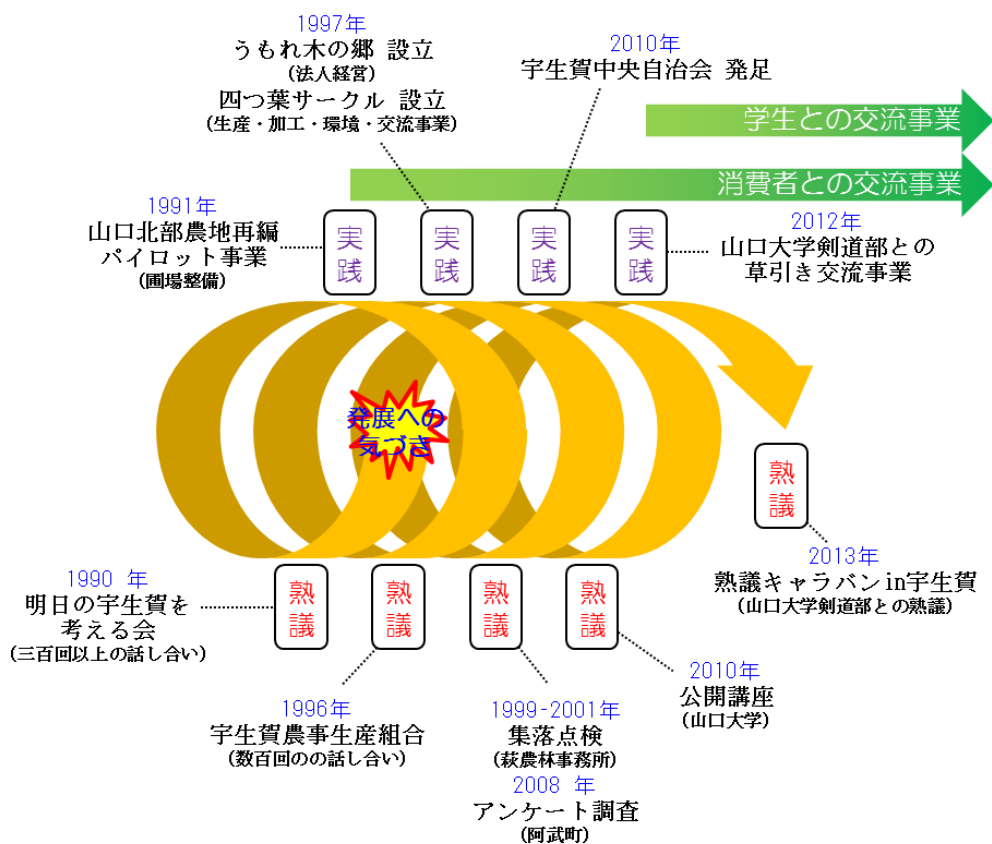


図4 宇生賀における熟議と実践の繰り返しの概念図

参考文献

- ・ 農山漁村文化協会 (2002), むらも田んぼも守る新しいしくみづくり, 『現代農業』11月号, 農山漁村文化協会, pp. 310- 321.
- ・ 農山漁村文化協会 (1999), むらの10年後を育てる「集落点検活動」, 『農村文化運動』154号, 農山漁村文化協会.
- ・ 辰己佳寿子・農文協編集部 (2009), 「女性の力」で地域をつくる, 『農村文化運動』194号, 農山漁村文化協会.

参加者より

ホストファミリー① 池田家

エコ 100 米は完全有機農法で育てるお米、それがいま大事だとさげばれている昨今、手間がかかるお米の作り方、農薬を使わないので雑草は伸び放題、今年は山大剣道部の学生さんたちに手を借りるといってお話、それで各家庭で泊まりを引き受けたとのお話、どうしよう「布団は、食事は、風呂は？」と一番先に頭に浮かんだのでございます。

当日は生憎の雨、初めて作業される学生さんは、大変だろうと心配しておりました。私はこの度は食事の方を担当していました。最初の日は、50 人分いえ 60 人分くらいでした。途中食事はたりるかなと心配したくらい食欲旺盛、夕飯は各集落にかえってお世話したのですが、何を作って出しても、「おいしいおいしい」と言ってあっという間に平らげるさまは、まさに圧巻、若さですね。作りがいもありました。夜の懇親会は若い人といっただけで夢があり素晴らしい交流会でした。でも一つだけ。農業の大切さ、食の安全をもっと知ってほしいと願っています。でも学生さんたち、皆礼儀正しくて感心しました。この草取りのえらくてきつい経験なんらかにかかしてほしいですね。

(池田 悦子)



島内勝矢、山口昇大、藤永陽平、小林晋輔、黒川優斗、池田悦子、池田誠

ホストファミリー② 金子家

山口大学剣道部の皆さん、6月16、17日、うもれ木の郷での田の草取りのバイトお疲れ様でした。16日皆さんが到着された時、うもれ木の郷は一面霧に覆われており、何処に田んぼがあるの？と思われたことでしょうか。霧が晴れると、小さな盆地の真ん中に田んぼがあり周辺に民家があるという、ちょっと変わった景色も珍しかったのではないのでしょうか？

さて、田の草取り作業は、日頃、剣道で鍛えてられているので、体力には自信がある皆さんにとっても、大変は作業だったことと思います。お疲れ様でした。草取り作業を通じて、農業の現状…後継者不足、安心・安全等、付加価値を付ける物づくりの大変さなど、いろいろ感じられたこともあると思います。

私の家には、2人の女子に泊まって頂きました。お世話したことといえば、ささやかな朝食の準備くらいでしたが、「バランスの摂れた食事は久しぶり」、「ごはんがおいしい！（圧力釜で炊きました）」と言って、朝からお代わりをしての食欲には、さすが体育会系の人と思いました。

この度の体験を機に、農家の応援団、お米大好き、野菜大好き人間になって、健康的な食生活を心がけていただければ嬉しく思います。

(金子 由記子)



宮原千聡、金子由記子、藤本真帆

ホストファミリー③ 尾本家

先日は学生の皆さんお疲れ様でした。お陰様で草取りもはかどり皆さんの元気をもらって稲も喜んでより生長してくれると思います。

受け入れる家の者は、うもれ木の郷の事務所に迎えに行く事になっていたのですが、初対面は自分の子どもより10歳以上若いので、すごくかわいい感じがしました。でも皆さんの挨拶や礼儀正しいのにびっくりしました。早々家に着いて、仕事をして、トラックの荷台に乗る事から喜んでもらって！！いざ田の草を取る時は初めてなのに愚痴も言わず、女の子は虫やヒル、カエルが居ても「キャー」とも言わず良く頑張ってくれたと感心しています。私たちは仕事をしながら、皆さんと話しもできて、若いパワーをもらったし、「頑張れ！！」の掛け声で随分元気が出ました。若いって素晴らしいナ！！つくづく思いました。17日昼前の作業、皆疲れもピークの中、加藤君の「天城越え♪」で私たちも楽になりました（まだいろいろききたかったナ？）16日夜の懇親会では、いろいろな話も聞けて、将来の夢も聞かせてもらって楽しい時間でした。家に帰ってからも、もっとしっかり話してみたかったし、皆さん（4人）が「トランプ一緒にやりませんか？」と誘われたのに一緒にできなかったことが心残りです。朝食もしっかり食べてもらえたとし、挨拶、礼儀も気持ちの良いものでした。

1泊でしたが、どんな時も別れは淋しいものですネ。なんだかこみあげるものがありました。今後、皆さん就職活動などで大変でしょう。夢に向かってしっかり頑張るって欲しいと思います。私も、うもれ木の郷の一員として、少しでも長く脇から助けられたらと思っています。でもこの農業体験で皆さんがお米の大切さ、無農薬の大変さがわかってもらえたら、お米を買う時に少しでも思い出してもらえそうですね。きつい仕事だったと思いますが、また、来年も若いパワーと元気を持って来てください。本当にお疲れ様でした。

最後に、16日の夜、宇生賀（黒川）のホテルを見せてあげたかった。

（尾本 雅・瞳）



尾本雅、尾本瞳、藤田康志、辻野健吾、近藤正行、田村友識、河相直幸



ホストファミリー④ 中原家

食に関する問題は現在地球規模の災害、人口増加等により、ようやく日本政府も重い腰をあげつつある。昔ある総理大臣が「百姓は生かさず殺さず」と言ったことを昔の方は覚えていることと思う。農業従事者を馬鹿にするにも程がある最低の言動である。

さて話は変わるが、6月中旬山口大学剣道部員女性4名が体験農業作業のため、自宅に1泊2日の予定で宿泊した。いずれも礼儀正しく、聡明なかわいい女性であった。

その雑草、ひえ取り作業に、昔懐かしき幼年少年期の時代の記憶が鮮やかによみがえったのである。幼年、少年時代の田んぼにおける集団作業が日常の一部となっていて、それを見ながら、又体験しながら成長していったのである。私が記憶するに、最初に耕運機が入ったのが小学5年生、同時に家族同様生活していた牛2頭もいなくなった。そして私が就職し、家からかなり遠くなった昭和45~6年頃から、本格的な農業近代化が進んだのであった。

書きたいことは山程あるが、現在日本の食糧の自給率は40%をきっている。残念なのは政治家も日本国民も目先の欲にとらわれて全く危機感がないことである。自動車、コンピューター、テレビ、携帯、なくてもいい。食糧の自給率を上げることが第一優先、このことを絶対忘れてはならない。皆食べていかなければ生命維持できないのである。最後にこの度の山口大学生の体験が貴重な体験となって、一人でも多くの次世代を担う若者が農業に関心を持ち、今ここにある危機に英知をもって打開してくれることを願っている。

(中原 徹也)



漆原礼花、佐古千尋、中原徹也、中原智恵子、石橋かれん、平野理子



ホストファミリー⑤ 田中家

山口大学生がうもれ木の郷に田の草取りに来て我が家に宿泊されると聞き、あわてて家の中、廻りの掃除、日頃片づけない所まで、お陰様で少しは綺麗にすることができたと思います。早速食事の献立、四つ葉の役員さんと話し合い、食事を作るのが私は好きですので、役員さんの中に入って会長さん達と買い物に行き、日頃の食事とは検討がたたず、50人分、少し心配でしたが皆さんで協力すればなんとかなり、学生さん達も美味しいと言って喜んで食べて頂きました。我が家では先生と学生さん5人の宿泊でしたが、草取りで疲れた様子もなく、夜遅くまで焼きむすびを食べながらいろんな会話に夢中でした。全国大会に出場される学生さんもおられ、私は次の朝、目が覚めるかと心配しましたが、結局私が朝寝坊をし、あわてて朝食の支度をする始末でした。最後の昼食はカレーライスでしたが本当に気持ちよく、おかわりを何回もされる学生さんもおられ安心しました。バスを見送る時、我が家に宿泊された1年生の学生さんが私の孫娘（小学1年生）にととてもよく似ており親近感を覚えました。1泊でも心が通じ別れに涙が止まりませんでした。来年も機会があれば大歓迎します。

(田中 敏子)



田中敏雄、松本諒、海老野秀典、辻多聞、田中博文、田中敏子、一松章弘、安平賢太郎

ホストファミリー⑥ 西村家

今回ホストファミリーのお話を頂いて、田舎作りの我が家に、環境の違う学生達を宿泊させる事に、少々不安を抱いていました。学生達に会うまではとても緊張していましたが、明るい好青年達で一安心しました。

雨の中、雨合羽での慣れない農作業は、大変きついのではないかと心配していましたが、日頃、剣道で培った精神力と忍耐強さでやり遂げてくれ、大変感心させられました。

自宅では、学生達がゆっくりくつろげるように、又朝食は、作業のエネルギーになるよう新鮮な野菜を使ったメニューに心がけました。素朴で田舎らしい献立にしてみました。よく食べてくれ大変うれしく思いました。

学生達との交流で、私達夫婦も若いパワーを沢山わけてもらい、まだまだ元気で頑張らなくてはと思いましたが、彼らともっとたくさん話しをしたかったのですが、時間がなくとても残念です。機会があれば又ゆっくり話してみたいと思いました。

この度は、明るく礼儀正しい彼らのホストファミリーになれとても良かったです。又、いつかますます成長した彼らに会うのが、私達夫婦の楽しみになりました。

(西村 文孝・静江)



溝口雄一、坂井伸伍、西村文孝、西村静江、加藤明孝、黒木健吾

ホストファミリー⑦ 原家

我が家は大学1年生の女の子4人と阿武町役場の小田君を御泊めしました。私は懇親会のお酒と雰囲気ですっかり酔ってしまって、肝心な我が家での交流のことはあまり覚えてないんです。

とにかく4人の女子学生はかわいくてあどけなかった。娘か孫と歓談しているような、また小田君とは息子とビールを交わしているような夜でした。また是非いろんな事を話したいと思います。

(原 哲郎)



原哲郎、小田慎也、黒川優斗、原スミ子、京條実穂子、江藤瞳、山口亜弓、佐々木妙

ホストファミリー⑧ 山本家

今回、うもれ木の郷より民泊をしていただけないかという、依頼を受け一寸困りました。私は、今まで学生を泊めたことはなく正直どんな子ども達が来るのかわからないし、上手にコミュニケーションがとれるか心配でたまりませんでした。

しかし、当日山大の学生を迎い入れ、夜に話しをしてみるとどの学生さんも、非常に素直で良い子で私の不安はすぐに無くなりました。草取りが大変だったという話をしながら親近感を覚えたものでした。

私には、娘と息子がいますがそれより若い子ども達は、話しがしやすく家族が4人増えたように思われました。次の日には帰ると思うと寂しさを感じてしまいました。

短い時間ではありましたが家族のような時間を過ごし、別れの寂しさを感じるほどの貴重な体験をさせていただき、良い思い出をつくることができました。ありがとうございました。

(山本ひとみ)



金田浩祐、山田浩智、山本ひとみ、石底大海、星出哲郎、佐野淳也、中村秀明、黒川優斗、山本勉生

剣道部 3年生

今回うもれ木の郷のみなさんに 2 日間お世話になり、農作業を体験させて頂きました。農作業についてどうだったかと問われればただただ「しんどかった」の一言に尽きます。剣道では使わない筋肉を酷使したせいか、この文章も筋肉痛の中書いております。僕たちよりずっと歳が上のうもれ木の郷のみなさんが、平気な顔で作業されている姿は圧巻でした。草抜きという作業は一見単純なものに思いましたが、稲と雑草の違いがあまり分からず戸惑いました。さらに草を埋めて出てこないようにするなど思った以上に技術のいる作業だと感じました。除草剤をまかず日々この作業をすることがおいしいお米につながるというお話を聞きました。うもれ木の郷のみなさんのそういった姿勢に、楽をしようとせず遠回りになっても一つ一つ丁寧にやることも重要であり、またそれを世間に高く評価してもらえるとということを学ばさせて頂きました。夜はとっても美味しい料理を食べさせて頂き、あんなに満腹感と満足感を得たのは久々でした。自分たちよりずっと年長の方とお酒を飲むということは滅多にない機会でのいい経験ができ、また単純にとっても楽しむことができました。僕は組合長の山本さんのお家に泊めていただき、そこで町長さんともお話ができとても勉強になりました。



佐野 淳也

男子主将

うもれ木の郷のみなさんは本当に温かい方ばかりでとても居心地のいい 1 日半でした。ぜひこれからも交流続けさせて頂ければと思います。本当にありがとうございました。

* * * * *

今回の農業体験を終えて、改めて様々な貴重な経験ができたと思う。とにかく実際に農業の一環として草むしりを行う事で、改めて米は農家の方々が苦勞して大事に育てているからこそ、自分たちの手元に届き食すことができるのだと実感することができた。また、自分がかつて「八十八日苦勞のお米、一粒たりとも残しません」という言葉を教わりそれを実施してきたが、その言葉の意味をこの学習の中で見直すことができたと思う。

農業を通じて学んだことは農業の事のみでなく、農業を行う上に置いては

やはり町の中でのコミュニティがどれだけ密なものであるべきか、人と人とのつながりの上に農業やこの農村の生活は成り立っているのだという事を学べたこともまた大きな財産だ。一言に農業といってもただ「米を育てる人」達だけでは「農業」は成り立たない。だからこそ地域内での「つながり」というものが何よりも大事なのだと気づかされた。人と人がつながることで「生み出されるもの」があるという事を学べた。これはなりよりも大きな経験だったと思う。これを今後の生活に生かしていきたいと思う。



海老野 秀典

* * * * *

私は実家が農家ということもあり、農業のきつさや苦労はどの剣道部員よりも分かっていると思っていました。現にこの体験を行う1週間前に田植えを行ってきたので、鮮明に記憶に残っていました。しかし、草引きの辛さはこれまで私が経験してきたどの作業よりも辛いものでした。中腰のまま歩きにくい田んぼの中を何十メートルも這って歩くという作業は、今まで想像も経験したこともないとても辛いものでした。



藤永 陽平

稲刈りというメインイベントの陰にはこういった地味でありながらも重要な作業が必要なのだとしみじみ感じながら草引きを行っていました。

また私は、草引きを行いながら、うもれ木の郷のような農業法人として農業を行っていく姿にこれからの日本の農業の在り方を感じました。食の安全性への注目が高まっていく今の世の中において、無農薬での栽培方法はますます重要視されていくと思います。また、TPPへの参加が検討されるなど日本の農業は海外との競争は避けることのできない状況であり、もはやこれまでのような個人経営では日本の農業は海外との競争を勝ち抜いていくのは困難であると考えられます。うもれ木の郷のように農業法人として地域一丸となって生産していくほうが、ブランド力が生まれると同時に個人ではなしえなかった付加価値の付け方ができると感じました。

今回の農業体験では、実体験として学んだことと経済学部として学んだこと両方がありました。うもれ木の郷の皆さんにはこのような学べる機会を作ってくださいましたことと、2日間に渡って農作業をこなすために朝食やお風呂

などの世話をしてくださったことなど誠にありがたく思っております。またこういった機会があれば次もぜひお手伝いさせてください。今後もうもれ木の郷が発展をしていきますことを心から願っております。本当にありがとうございました。

* * * * *

2日間、短い間でしたが大変お世話になりました。今回の経験は貴重なもので、たくさんのことを学びました。

まず、農業素人の僕たちを暖かく迎えてくださったことに感謝しています。全くお役に立てず、むしろ足を引っ張ったと思いますが、いやな顔ひとつもせずに優しく教えていただき、ありがとうございます。またご飯もたくさん作っていただき、とてもおいしいものばかりで食べ過ぎてしまいました。

お気に入りには豆腐です。今まで食べた豆腐の中で、一番おいしく、醤油をつけなくてもおいしかったです。夜もご馳走、交流会ととても楽しかったです。また泊めていただいた家族の方にも感謝しています。本当の家族のように接していただき、とても居心地がよかったです。

普段何気なく食べているお米や野菜は、多くの大変な作業があり、たくさんの方が苦勞して作っているものだ学びました。また機会があればぜひ足を運びたいと思います。

* * * * *

うもれ木の郷を訪れて1番良かった事は、沢山のうもれ木の郷の皆さんと交流を深める事ができた事です。お料理も非常に美味しく、楽しく過ごす事もできました。私は、田中敏雄さんの家に泊まらせて頂きました。夜、私が剣道で全国大会に出場する事を話した際、非常に為になる話をして頂き感謝しています。うもれ木の郷の皆さんに「全国頑張っ」と言われ、もっと練習を頑張ろうという気持ちになりました。1回でも多く勝ち、うもれ木の郷の皆さんに良い報告ができればと思いました。



星出 哲郎



松本 諒

イネの周りの雑草を取る作業では、最初は楽観的に考えていましたが、実際にやってみると大変で1日目の作業で筋肉痛になりました。この作業をうもれ木の郷の皆さんは毎年やっているのだと考え、自分達が少しでも多く雑草を取り、うもれ木の郷の為に貢献したいという気持ちになりました。そのため、2日目は少し慣れたという事もあり、1日目よりも多く雑草を取る事ができて、良かったです。また、うもれ木の郷を訪れた時は、もっと活躍できたらいいなと思います。

最後に、うもれ木の郷の皆さんと山口大学剣道部の関係をより親密なものにできたらいいなと思いました。私は3年なので、来年は就職活動で行けないかもしれませんが、機会があれば行きたいと思います。うもれ木の郷の皆さんと山口大学剣道部の関係が受け継がれていく事を願っています。うもれ木の郷の皆さん、1泊2日という短い間でしたが、ありがとうございました。

* * * * *

今、自分の気持ちを振り返ってみて、今回の農業体験は、とても楽しかったです。うもれ木の郷の皆さんはとても優しく、暖かくてアットホームでした。皆さんと交流した思い出が一番強く残っています。

農作業は初めての体験でした。うまくいか不安な面もありました。実際、田んぼに入ってみると、予想以上に足が埋まりました。教えていただいたやり方を実践しようとしても、はじめはなかなかうまくいきませんでした。でも、周りにいらっしゃった郷の皆さんに、手取り足とり教えていただき、なんとか作業を進めることができるようになっていきました。やっているうちに、夢中になっている自分がいました。作業が終わると、服が泥んこになっていました。なんだか、すがすがしくて、とても気持ちよかったです。土の匂いが好きになりました。また、うもれ木の郷の自然は、とても良かったです。こんな自然に囲まれた場所に来たのは、久しぶりでした。心と体が元気になりました。



溝口 雄一

四つ葉サークルの皆さんが作ってくださった料理は、栄養たっぷり、とてもおいしかったです。この料理が、2日間の原動力になりました。その中でも、一番印象に残っているのは、おにぎりです。うもれ木の郷の米のおいしさが分かりました。2日間、おいしい料理を作ってくださった四つ葉サークルのみなさん、ありがとうございました。

私はこの2日間、西村さんご夫妻のお宅にお世話になりました。本当に良くしていただきました。リラックスできて、お二人の優しさに甘えてしまいました。夜の交流会が終わって、西村さん宅でゆっくりお話しすることができました。そのとき撮った写真は、宝物です。2日間泊めていただきありがとうございました。

今回は、初めての農作業という、貴重な体験をさせていただきました。人生の最高の思い出になりました。帰るときは、まだここにいたいなあと思いました。だから、絶対また行きたいです。うもれ木の郷のみなさん、2日間、本当にありがとうございました。

* * * * *

私にとって今回の経験は初めてのことばかりでした。田んぼの中に入ることも自体初めての経験で、なんとも言えない泥の感触に、小さい頃泥遊びをしたことを思い出しました。民宿も初めてで、最初は緊張しましたが、とても温かく迎えてくれて嬉しかったです。農業体験では、1日目は間に合わなかったのですが、夜の交流会では、たくさんの地元の方々とお話しができて、楽しかったです。農薬を使わずに手間隙かけてお米を作っている姿を見て、私たちがお手伝いさせていただいたのに、逆にパワーをもらった気がします。本当にありがとうございました。今回限りでなく、また来年もうもれ木の郷に行けたらなと思います。



藤本 真帆
女子主将

* * * * *

阿武町での2日間、とても貴重な体験をさせていただきました。私の祖父母は農業をやっているのですが、その手伝いをしたことはありました。しかし、それは本当に短い時間で、今回のように2日に渡って農家のお仕事を体験したのは初めてでした。

田んぼに入り、草取りの手伝いをさせていただきましたが、本当に手伝いになっていたのでしょうか。米作りに関して、まったくの素人なので、稲とひえの見分けがつかず、間違えて稲まで抜いてしまっているかもしれません。私たち



漆原 礼花

のせいで今年の収穫量が激減してしまわないだろうかと不安に思っています。作業に時間がかかっている私たちでしたが、農家のプロの方はどんどん先に進んでいき、その手つきを見て、やっぱりプロは違うなと思いました。私は数時間作業しただけで筋肉痛になってしまったのに、これを毎日何時間も続けると考えると気が遠くなりそうです。しかし、手間と時間をかけただけ、おいしいお米ができるのだと思います。昼食や夕食に作っていただいたおにぎりはとてもおいしかったです。つらい仕事のあとにあれほどおいしいお米を食べることができて幸せでした。おにぎりの他にもたくさんの料理を作ってくださいました。阿武町でとれた食材を使った料理が多く、阿武町の豊かな自然や生産者の方々の努力を感じられたような気がします。

一晩泊めていただいた中原さん、大変お世話になりました。何のお返しもできず、申し訳なく思います。私は3年生なので、来年また農業体験に行くことはできないと思います。来年は、今の1、2年生と来年入学する新1年生がお世話になるかもしれません。そのときは、どうぞよろしくお願いします。

* * * * *

先日、初めての試みとして阿武郡阿武町宇生賀のうもれ木の郷で2日間草引きをさせていただきました。この2日間で学んだことは、1つに農業の大変さです。私は、定年退職後は農業を行ってゆっくり暮らすという計画を立てていました。これは、実家は農家ではありませんが畑でいろんな野菜を栽培しており、そんな自分達が作った野菜を食べると一段と美味しく感じることに魅力を感じていたからです。しかし、今回田



宮原 千聡

の草引きをお手伝いさせて頂いて、改めて農業の大変さに気付かされました。うもれ木の郷では無農薬野菜・米も栽培されているのですが、無農薬である分雑草が密生しとても草引きには手間がかかりました。安心であるものには多くの手間がかかっているということを実感することができました。体験を通して、毎日安心して食事できることにもっと感謝しなければならないと感じました。そしてさらに将来は農業がしたいと思うようになりました。

2つ目は人の温かさです。うもれ木の郷のみなさんはとても優しく、気さくに話しかけて下さりました。集会所で食べる食事は、実家に帰ったような懐かしい味で、量も多く本当においしかったです。そして何より、初対面の私たちを快く泊めて頂き本当に人の温かさというものを感じた2日間でした。

今回、剣道部がお手伝いするというものだったのに逆にうもれ木の郷の皆さんにお手数をおかけしてしまったのではないかと思います。

今回、普段大学に通っていても体験できないようなことを体験させていただきました。体験することで、決して座学では学べないようなことをいくつも学びました。今回の体験で学んだことを今後の大学生活、人生で活かしていけたらいいなと思います。



剣道部 2 年生

私は今年で 21 歳になりますが、田んぼに入ることが、今回の農業体験を通して初めての経験でした。私の実家は沖縄県で、サトウキビ畑がたくさんあり、農業に関する事を分かっていると思っていましたが、それは私の思い込みだったと思います。確かに、サトウキビ畑に囲まれて生活していましたが、今まで農業に関する事を深く考えた事が無かった事に気づかされました。少子高齢化社会で、農家を継ぐ若者が少なくなっているというニュースを良く耳にしますが、恥ずかしい事に私には関係ないと思って聞き流していました。農業体験を行って、あの広い土地をみな年配の方のみで農業をしていた事に驚きました。実際にわずかな時間でしたが作業をして、農業の大変さを身に染みて感じました。ふだん当たり前のように食べていたお米が、こんなに苦勞して作られている事に気づかされました。



石底 大海

今回の農業体験を通して、私が得た事がたくさんありました。少し大げさな言い方かも知れませんが、今まで知らなかった世界を知り、人間的に成長したと思います。まだまだ何も知らない若者ですが、農業に関する事を考えていけないといけないと思いました。

最後になりましたが、今回の農業体験を面倒見てくださった方に、このような形ですが、感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。来年も機会があればまた参加したいと思います。

* * * * *

農業体験に行き、最初に思ったことは、「絶対にきついな」ということでした。案の定、最初はとてもきつかったですが、農作業をして行くうちに慣れていき、終わってみて、今はすごくいい体験だったと思います。日頃僕たちが食べているお米が、こんなにも大変な作業をして作られているということを知っただけでも、とてもいい経験になったと思います。農作業をしているときや、民家の方々との会話などを通して、食べ物のありがたみに再度気づかされました。また、夜の交流会や、民家でのふれあいはとても楽しいひ

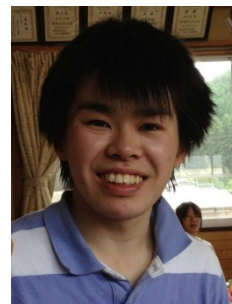
とときでした。剣道から離れて、こうした形で剣道部のみんなと関わりを持てたことも僕にとってはいい経験でした。農作業はきつかったですが、みんなで助け合いながら作業ができてとてもよかったと思います。今回の農業体験を通して、剣道部のチームワークもよくなったのではないかと思います。また、食べ物などを用意していただいた阿武町の方々にはとても感謝しています。今回の体験で、農作業のことだけでなくいろいろなことが学べたのではないかと思います。僕にとってとてもいい経験でした。



一松 章弘

* * * * *

今回の農業体験に参加して、最初、農業はどこでどんなことをするのか全く想像もできなかつたです。それで1泊する現地に到着したときはまわりが本当に田んぼだらけで驚愕しました。田んぼばかりの風景は、自分自身田舎育ちだからなれていたはずでしたが、まさか田んぼと家以外見当たらないような場所とは思いませんでした。こんなところで農家の人は一日中田んぼのなかで働くのかと考えたら、少しゾクツとなりました。さて、実際に農業をやってみて、沼(?)が深くて足をとられ、たくさん生えた雑草をひたすら抜くのにもものすごくこずりました。間違えて稲を抜いてしまいそうでなかなか草ぬきがうまくいきませんでした。こういうことを農家の方々は毎日やっていると考えたら、農家のこだわりをすごく感じました。実際に農家の人が作ってくれたおにぎりとう豆腐はすごくおいしかったです。豆腐は麻婆豆腐に使いたくなるくらいでした。やっぱり、働いたあとのご飯はおいしかった。結局は「働かざる者、食うべからず」ってことだと思いました。



黒木 健吾

* * * * *

6月16日から17日の2日間で行われた農業体験でうもれ木の郷の人と交流ができてとてもよかったと思っています。田んぼの中に入っての草引き作業ははじめてでとてもいい経験になりました。田んぼの中での作業はかなりつ

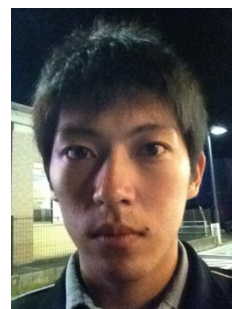
らく、稲と雑草の違いが判らずとても苦労しました。はじめて入った田んぼでの泥の感触は最初の頃は気持ちが悪かったけれども、慣れていくうちに泥の感触の違和感がなくなって気にならなくなっていきました。泥に足を取られて思うように作業ができなかったけれど、最後までやりぬくことができよかったですと思いました。昼休みに食べた大量のおにぎりやカレーライスは働いたあとだったので、とてもおいしく感じました。特にすいかの甘さを今も覚えていてまた食べたいと思いました。みんなといっしょにご飯を食べることはいいことだと思いました。2日間と短い間でしたけれど、農家の人にとってもよくしてくれて感謝しています。また、来年も農業体験があったならまた参加したいと思いました。



近藤 正行

* * * * *

6月16日、17日私たち剣道部は阿武町にある「うもれ木の郷」に農業体験をさせてもらいに行った。今回農業体験をさせて頂く機会を与えてもらったことに感謝したいと思う。現在農業は跡継ぎ不足や、若い人たちが少ないということをテレビなどでよく聞く。しかし、私は正直農業の現状や仕組みなどを知ろうとする気持ちが無かったように思う。今回、農業が法人化されている所があるとか、農薬を使わない特別なお米を多くの労力をかけて作っていらっしゃる事、農業まつりなどが開催されている事など知ることができた。さらには実際に草抜きを体験させて頂くことで自分の口に入るお米を作るのにどれだけの労力と、生産者の方々の努力が詰まっているのかということも考えることもできた。現在震災の影響などで特定の県のお米や作物などが買い控えられているということをよく聞く。生産者の方々の努力や熱意を考えると、震災の影響を受けていない人達が買い控えに走ることは誤りであるなど改めて考えさせられた。これからは自分には無関係だと思わずに食料自給率の問題や、後継者不足の問題などにも自分の考えを持った人になりたいと思う。



坂井 伸伍

最後に今回私たち山口大学剣道部を迎え入れてくださった「うもれ木の郷」のみなさん。並びに私の宿泊先でお世話をしてくださった、西村さんご夫妻、並びに家族の方に本当に感謝したい。貴重な体験をありがとうございました。

* * * * *

1泊2日の農業体験に行ったことで自分は精神的に成長できたと思います。農家の方々は、私たちを温かく迎えてくださり、とてもうれしかったです。農業体験では、ひたすら田んぼの雑草を抜き、最初はみんなでわいわいとやって楽しかったのですが、徐々に疲労が蓄積されていき、しんどいなと思うことが多々ありました。しかし、農家の方々が、黙々と雑草を抜いているのを見ると、自分たちも頑張らないといけないなという気持ちが芽生えてきました。私たち素人の学生がいくら頑張ったところでたいしてお役には立てなかったかもしれませんが、少しでも喜んでもらえたらなと思いました。農家の方々が出してくださった食事はどれもとてもおいしかったです。大学生になってから食生活が乱れていたのので、久しぶりに健康的な食事を取ったように思いました。農業体験以来、私は、ちゃんと1日3食しっかり食事を取るように心がけることができるようになりました。この時期は試合などが多くどうしても忙しいので、来年また参加できるかはわかりませんが、本当にいい体験ができたと思っています。ありがとうございました！



島内 勝矢

* * * * *

今回の農業体験で私たち剣道部は田んぼの草取りをやらせていただきました。私たちが普段何気なく食べているお米が、このような大変な作業を通してお米ができるということを肌身に感じました。ただ私たちがやった作業はお米ができるまでの作業のほんの一部でしかありません。おいしいお米ができるには田植えや稲刈りはもちろん、定期的な草取りなどを約半年かけて行わなければなりません。けど大変な作業があつてこそ私たちの食卓に安全なお米が届くのだと思います。



辻野 健吾

自給自足の生活になじみのない私にとって貴重な体験ができました。お米だけでなく野菜や穀物など農家の人によって大切に育てられたものを、平気に好き嫌いしたり残飯として廃棄したりすることは容易にやってはいけないと感じました。私が子どもの時によく親に「食べ物を粗末にするな」って言

われたのはこのことだと改めて思いました。

私は工学部なので将来的に農業のほうに携わることはめったにないので、またこういう形で機会が与えられるなら草取り以外の他の作業もやってみたいなあと思いました。

* * * * *

今回、剣道部の一員としてうもれ木の郷で草引き体験をさせていただきました。

わたしの生活はこれまで、農業とは無縁のものでした。当然、田での草引きは当然のこと、田に入ることさえ初めての経験でした。

草引きをする際にいくつか感じたことがあります。まず、肉体的に自分の想像の数倍つらい作業だということ。事前に肉体を駆使する作業だと覚悟してい



山口 昇大

たのですが、常に中腰で、足を泥にとられ、ひたすら草をとる作業は非常につらかったです。次に、いくら草引きをやっても終わりが見えないということが精神的につらかったです。

この体験を通してわたしが学んだことは、農作業のつらさと同時に農家の方への感謝の気持ちです。わたしが普段食べている米は、この様な作業を何度も繰り返すことによってようやくできるものだということがよく分かりました。

最後にこのような体験を用意していただいただけでなく、おいしいおにぎりや豆腐など様々な料理や交流会を準備していただき、ありがとうございました。

* * * * *

私の父の実家が農家なので、初めてこの話を聞いたときに「何をするんだろう」と思いました。父の実家に何回か手伝いに行ったことがあったのですが、おそらく農業を使っている普通の農家だったので、草引きなんて仕事があるなんて知りませんでした。

実際に、草引きを体験して本当にきつい仕事だと思いました。何時間も腰をかがめておかなければいけないし、田んぼに足を取られて歩きにくいし、田んぼはとても広いし、とても大変な仕事でした。まだ二十歳の私でさえも

きつかったのに、その何倍もお年をめされた方がさくさく作業を進められているのを見て、やはりプロの方は違うなあと思いました。今までこういうことをやったことがなかったので、最初は本当にのろのろとしかできなかつたのですが、2日目の午後はちょっと慣れてきてコツも掴めてきたので、スピードも速くなったと思います。だから少し楽しかったです。そしてお昼御飯なども一人暮らしではなかなか食べない野菜を食べれて、とてもおいしかったです。



石橋 かれん

20年間生きてきて初めての経験を、このように優しい皆さんの下でできたことをとてもうれしく思います。この体験を通して、食の安全の大切さとおいしい食べ物のありがたさがよくわかりました。今後結婚して親になったら、この大切さを子供にも教え、安心して食べられる食品を買おうと思いました。このたびは本当にお世話になりました。ありがとうございました。

* * * * *

初めてこのお手伝いのお話を伺ったときは、きちんと仕事をこなせるのかという不安の半面、嬉しさもありました。というのも、亡き祖父の小さな畑を幼い頃から手伝っていたので、懐かしさに似た思いもあり、今回のお手伝いに元気よく臨もうと思いました。



佐古 千尋

うもれ木の郷に着くと、私の地元である防府市よりも緑も空気も綺麗で草抜き作業も気持ちよく行うことができました。水を張った田んぼに入るのは小学校

以来だったので進み慣れるまで苦労しましたが、剣道部の仲間や、一緒に田んぼに入って稲と草の見分けを教えてくださいましたうもれ木の郷の方々の存在があったからこそ、精神的にも体力的にも乗り越えられたと感じています。

昼休憩の際には、美味しい白ご飯やその日の朝作ったばかりの豆腐、うもれ木の郷で採れた野菜で作ったお昼ご飯は、他界した祖母の料理を思い出して思わず涙ぐみました。たくさん量のご飯は、それだけうもれ木の郷の方々の愛が感じられました。

うもれ木の郷に来る前は「単なる草抜き作業の手伝い」という程度の認識でしたが、地域の皆さんと実際に行動を共にして、人との交流の素晴らしさを改めて感じることができました。またこのような機会があれば、前回以上

に貢献できたらなと思います。

今回のような貴重な体験をする機会を与えてくださって本当にありがとうございました。



剣道部 1 年生

私は今までに農業に携わることが少なく、田んぼの中に入ることも初めての経験でした。行く前はそんなにしんどくないだろう、と聞いていたがいざやってみると1日目の午前中だけで草引きの大変さを身に染みて実感しました。おいしいお米を作るためにはこれほど大変なことをしなければいけなくて、農家の方の手間がかかっているのだと思いました。今回泊めていただいた西村さんのお話の中で薬を使えばこんなに大変なことはしなくていい、けれど安心・安全なものを作るためにはこれだけのことをしなければならないとおっしゃっていて、普段よく耳にする食の安心・安全というものはとても大変で多くの苦労があるのだと思いました。また全く薬を使わずに育てたお米はすでに予約でいっぱいになっており、大変人気だそうです。ふつうのお米と比べて値段は張るそうなのですがそれでも売り切れるくらい人気ということはそれだけ食に対する関心が高まっているのだと感じました。うもれ木の郷の皆さんには大変良くしていただきとても楽しく良い経験になりました。また大学生活の思い出になりました。なんととってもあのおいしいご飯は忘れることができません。手作りのお豆腐も大変おいしかったです。本当にありがとうございました。秋の稲刈り、来年の草引きができることを楽しみにしています。



加藤 明孝

* * * * *

今回農業体験でいろいろとお世話をしてくださりありがとうございました。いつも練習している剣道の練習とは違う大変さを味わうことができ、とても良い経験になりました。

農業があんなにも大変だとは今まで知りませんでした。私たちが今まで何気なく食べているご飯は、とても多くの方が手間暇かけて作っているのだなということを実感することができました。改めて、食べ物を絶対に粗末にはしてはいけなと感じました。



河相 直幸

夜の懇親会などでは、とてもおいしい食事ととても面白いお話本当にありがとうございました。特に、日頃普通に生活をしていると食べられない手作り豆腐はとてもおいしく感動しました。また、日頃、学生同士だと聞けないようなお話も聞けてとてもためになりました。

今回、農業体験をし、心身ともに耐えられ、とても良い経験になりました。今後この経験が活かせるよう頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

* * * * *

私は、実家が農家で田んぼを持っていることもあり、田植え・稲刈りなどは多少経験がありましたが、田んぼの草引きは今までしたことがなかったため、ある意味、貴重な体験をすることができました。実家は、農薬を使って雑草や害虫に対処していたため、当初は正直そんなにきつい仕事だとは、思いもしなかったです。しかし、実際にやってみると、身をかがめたまま、田んぼの中を移動することは大変で、うもれ木の郷の農家の方たちが丹精を込めて消費者のためにお米を作っているのだと実感できました。特に、印象に残ったことがうもれ木の郷の皆さんが誰とでも気さくに、明るく接してくれたことです。草引きのときはもちろん、宴会や昼食の際にも場を盛り上げてくださったので私たちも元気をもらうことができました。来年またうもれ木の郷を訪れる機会がありましたらその時は、よろしく願いいたします。うもれ木の郷のみなさんもお体に気を付けて農作業頑張ってください。



小林 晋輔

* * * * *

農業体験は初めての体験でした。山大剣道部は、6月16日に農業体験（草抜き）をしに宇生賀に行きました。

最初のうちは、雨も降り、一度も経験がないということで、不安がありました。初めて田んぼに入るときは足をとられて動揺したし、草を抜くにしてもどれが稲でどれが雑草なのか正直区別のつかないままやり過ぎました。草抜きが終わる頃には腰辺りが痛かったことを覚えています。

農業体験では、1泊することになっており、民家で一夜を過ごしました。家

の方はとても親切で、農業の大変さを語ってくれました。実際、1日ではあるけれども、農業は大変だということや、食のありがたみに関して草抜きを通して実感しました。そのため、農業は大変という家の方にたいしてすごく共感しました。

その次の日は、だいぶ慣れたおかげか、雑草を見分ける感覚や、草を抜くスピードがアップしました。最初の頃よりスムーズに仕事ができるように感じまし

た。午後に帰る時間だったのですが、そのときに、この土地の人と関わることができてよかったと思いました。



田村 友識

* * * * *

今回僕たちは阿武町のうもれ木の郷という場所へ行き、農業体験をしてきました。そこで草引きをしたり農家の人々と触れ合ったりと、普段では体験できないことをたくさんさせてもらいました。まず、向こうに行って最初に目に映ったのは一面緑で覆われた田んぼでした。自分は山口で育ちましたがあんなに広い田んぼは初めて見ました。着いてすぐ着替えて早速草引きにとりかかりました。初めはあまりたいしたこと



安平 賢太郎

ないなと思っていましたが、時間が経つにつれてだんだん疲れがでてきました。特に腰に一番痛みがきました。さっきまで近くにいた農家のお母さん方はかなり先に進んでいて驚いたとともにすごいなと感じました。あと、作業が終わってへトへトになった後のご飯は最高においしかったです。白いおむすびの味は忘れられません。晩には農家の人々といろんな話をしました。冗談から深い話までたくさん話をしてとても楽しく過ごすことができました。今回の体験はただ農業の体験をただだけでなく、いろんな人と触れ合うことのできる体験でもありました。この日のことは必ずこれから先自分の財産になると思います。今回とても貴重な体験をさせてくれた農家のみなさんに本当に感謝したいです。

* * * * *

今回の農業体験を通して、普段食べている食物の中でも本当に安全なもの

を作ることの大変さを少しでも体感することができたと思います。

田んぼの中に入り、ずっと中腰で行う草引きは本当に大変で、すぐに筋肉痛になってしまい、また普段当たり慣れてない日光に当たったせいか、2日目は1日目にまして疲れ、体力も精神力も鍛えられた様な気がします。他の田んぼなら除草剤をまいて終わりのはずをわざわざ手間暇かけて行う、安全へのこだわりのすごさを感じました。だからこそ、うもれ木の郷で採れたお米や野菜はあんなにおいしかったんだなと思います。また晩に行われた交流会では会も盛り上がり、なかなかできない交流を行うことができいい経験になったと思います。

今回の体験で感じたこと、学んだことを、剣道や食生活、色々なところで活かしていけたらと思います。



山田 浩智

* * * * *

日頃経験することのない農業体験をさせていただく中で、様々なことを発見し、学ばせていただいた。なかでも印象に残っていることが、うもれ木の郷の方々はお米をととても大切に育てているということである。最近では田んぼの除草作業はほとんど薬を使って行うが、うもれ木の郷の方たちはほとんどが高齢者の方たちにも関わらず、薬を一切使わずに全て手作業で抜いているそうだ。実際に私たちが草抜きを体験してみると、始まってから2時間もたたないうちに腰が痛くなり始め、この作業を毎年毎年高齢者の方が行うのは本当に大変なことだと思った。雨の中での草抜きは大変だったが、終わった後にいただいたその田んぼでとれたお米をつかったおにぎりは米粒一つ一つがしっかりしていて、甘く、今まで食べたお米のなかで一番美味しかった。



江藤 瞳

体験をする前までは、スーパーで米を買うときに何千円も出して買うのももったいないと感じていたけれど、今回の体験で米作りの大変さを知ると、まだまだ安いほうであると思うようになった。

* * * * *

私は、2日間という短い期間の中農業体験を通じて、新たに感じたことが多々あります。

私は当初、農業体験という自分にとって無縁の事を体験するという事には多少の抵抗があり、良い気持ちはしませんでした。ですが、最初は抵抗のあった田の中の草むしりも、次第に楽しくなり、さらに周囲も頑張っているんだから自分も、という気持ちも芽生えるようになりました。そこから大勢でやると、嫌な事も良い方向に持っていけるものだと感じました。

そして、何よりも心に感じたことは、地域の方々の優しさです。初対面の私達を笑顔で家に出迎えてくれ、そして農業のこと、家族のことなど、私達に多くのことを話してくださいました。集まってご飯を食べる時も、会話が絶えず、楽しい時間を過ごすことができました。作業が終わった後も、気持ちの良い「お疲れ様」という声でとても気持ちよくこの2日間の作業を終えることができました。

私は、今までお米を店で買って炊いて食べることを普通に行っていました。ですが、2日間の農業体験を通して、私達が当たり前にお米は農家の方々の陰での地道な作業によってでき上がることを実感し、地道な作業や努力がなければ、私達は普通にお米を買うことができないのだということも感じました。

たった2日間という短い間の農業体験で、微量の成果しか出せませんでした。が、うもれ木の郷の米作りに携われたということをととても嬉しく思いました。これからうもれ木の郷の方々の優しさや、作業の辛さを忘れず、お米を普通に食べられるありがたさも忘れずに頑張っようと思ひます。

* * * * *

約2日間お世話になりました。わたしの祖父祖母が農家をしており、田植えや畑仕事の手伝いをしたことはありましたが、今回の草刈りは、初めての体験でした。最初は難しかったけれど、みなさんに教えていただいたおかげで、イネとヒネのみわけが、できるようになりました。今回は、剣道部が手伝ったけれど、それまではすべて、農家のみなさんがしていたと思うと、本当に大変な作業だと思います。私なんてすぐに



京條 実穂子



佐々木 妙

腰がいたくなつたのに…。そして、無農薬と除草剤をまいたたんぼの違いにおどろきました。それだけ、農薬が強力なもので、有機野菜の安心さをつくる大変さを知りました。

また、原さんのお宅では、私たちのことを本物の家族のように、一緒の時間を過ごし、たくさんお話ができて、とても楽しく、ためになりました。これからはいくつかの新聞を読もうと心がけます。これからも元気にお過ごしください。

それから、四つ葉サークルのみなさん、ごはんとってもおいしかったです！豆腐はあまくて、お米がおいしくておにぎりたくさん食べられました。私も、あんなおいしい料理をつくれるようになりたいとおもいます。

最後に、この2日間でたくさん経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。これからも、このような機会があれば、積極的に参加し、すこしでも社会貢献できる人になりたいと思います。

* * * * *

うもれ木の郷のみなさんには5月16・17日の2日間、大変貴重な体験をさせていただいて、本当にありがとうございました。また、また、泊めていただいた中原さん、食事や交流会のお世話をさせていただいた四つ葉サークルのみなさんにも大変お世話になり、ありがとうございました。



平野 理子

私は、今までで、農業にかかわる体験というと小学校の時に田植えと稲刈りをしたくらいしかやったこと

がありませんでした。なので、米の成長過程でどのようなことが行われているかよく知りませんでした。そして、私たち消費者は、「無農薬」などと書いてあると普通のお米を買う時と同じような感覚で買いますが、今回草引きを体験して、そういったお米ができるまでに、こんな大変な過程があるのかということがわかり、本当に貴重な体験ができたと思います。本当にしんどい作業で、これをいつもこなしていらっしゃるうもれ木の郷の方々には本当にすごいと思いました。私たちがやった草引き体験はお米ができるまでのほんの一部の作業だとは思いますが、この経験は本当に今後の生活に生きていくと思います。

そして、私は今まで野菜なんてどれも同じだと思っていましたが、今回、うもれ木の郷が使っている料理をいただいて、野菜とお米ってこんなにおい

しいのだと驚きました。

ぜひ来年もうもれ木の郷で農業体験をさせていただきたいなと思いました。
本当にありがとうございました。

* * * * *

農業に関して、実のある体験ができたとおもいます。1時間くらい集中して雑草を抜いても数メートルしか前に進んでいないので、気持ち的に辛いと感じる事が何度もありました。その何度も辛さを感じる度に、農家の人達は普段少人数で、あの2日間で活動した面積の何倍何十倍の田畑の雑草を抜いていると思うと、ある種の畏敬の念が沸きました。雑草抜きをするうちに、一つの目的を積み重ねて行くことを無心でしていくことができました。雑念を除き、一つ一つを行っていくことは、普段の練習に繋がる部分があると思います。そういう意味で、あの体験は剣道の練習に活用できるのではないかと、思いました。夜での団らんで、人との触れ合いができて良かったです。今後将来の中で、新しい人と話し合う必要があります。社会に入れば尚更です。農家の人達はとても人当たりよく接してくれたので、緊張したり、焦ったりせず、団らんすることができました。この体験は、これからの人格形成の肥やしの一つにさせていきたいと思いました。



山口 亜弓

写真でみる交流活動

開会セレモニー

2012年6月17日 10:30～



草引き研修会

2012年6月17日 11:00～



昼食①

2012年6月17日 12:00～



草引き作業①

2012年6月17日 13:00～



3会場に分かれての懇親会①

2012年6月17日 18:00～



3会場に分かれての懇親会②

2012年6月17日 18:00～



草引き作業②

2012年6月18日 08:00～



昼食②

2012年6月18日 12:00～



閉会セレモニー

2012年6月18日 13:00～



報道関連資料

うまれ木の郷ホームページ

http://umoreginosato.or.jp/?p=81

農事組合法人うまれ木の郷 公式ホームページ ～山口県阿武郡阿武町宇生賀～



法人概要	事業内容・取組経過	活動内容・成果	うまれ木の郷とは	四つ葉サークル	視察者紹介	総会報告	お問合せ
------	-----------	---------	----------	---------	-------	------	------

最新のお知らせ一覧

- ▶ 上万地区、伊豆地区の新年会
- ▶ 2012年7月22日 宇生賀八幡宮
- ▶ 2012年6月16日：山口大学剣道部学生 農作業支援合宿
- ▶ 2012年5月19日：自然記念物「能田溜池のミツガシワ群落」のご紹介
- ▶ 平成24年2月19日 第15回通常総会

過去のお知らせ一覧

- ▶ 2013年1月
- ▶ 2012年8月
- ▶ 2012年6月

information

- ▶ ホーム
- ▶ 法人概要
- ▶ 事業内容・取組経過
- ▶ 活動内容・成果
- ▶ うまれ木の郷とは
- ▶ 四つ葉サークル
- ▶ 視察者紹介
- ▶ 総会報告
- ▶ お問合せ

2012年6月16日：山口大学剣道部学生 農作業支援合宿

2012-06-17

日時：平成24年6月16日・17日
 うまれ木の郷は、消費者のニーズに応えるためJAS米、エコ100米（無農薬、無化学肥料）を栽培しています。
 6月16日・17日に、全国でも珍しい取組みとして、山口大学剣道部学生さん31名の農業支援合宿で草取りのご協力を頂きました。



開会式（16日10時30分）は、テレビ局、マスコミを初め、新谷山口県議、中村町長、服部部長（萩農林事務所）他の方々をお迎えし開催しました。



草取りは、初めてお体験で腰の痛い作業でしたが、組合員の皆さんの歓迎



交流会は、四つ葉グループの皆さんの手料理が疲れを解しました。



- 法人要
- 事業内容・取組経過
- 活動内容・成果
- うまれ木の郷とは
- 四葉サークル
- 視察者照会
- 総会報告
- お問合せ

農事組合法人 うまれ木の郷
 〒758-0613
 山口県阿武郡阿武町宇生賀911
 TEL:08388-5-5000

農事組合法人うもれ木の郷 公式ホームページ ～山口県阿武郡阿武町宇生賀～

農事組合法人
うもれ木の郷

法人概要	事業内容・取組経過	活動内容・成果	うもれ木の郷とは	四つ葉サークル	視察者紹介	総会報告	お問合せ
------	-----------	---------	----------	---------	-------	------	------



部員が、日本剣道形（七本）の披露をしてくれました。初めて見る組合員の人もいて剣道基本技に感動しました。



8軒の組合員宅に民泊しホストを囲み人生論などを語り温かい夜のひと時を有意義に過ごしました。

←「2012年5月19日：自然記念物「熊田溜池のミツガシワ群落」のご紹介」前の記事へ 次の記事へ「2012年7月22日 宇生賀八幡宮」→

農事組合法人
うもれ木の郷

- 法人要
- 事業内容・取組経過
- 活動内容・成果
- うもれ木の郷とは

- 四葉サークル
- 視察者協会
- 総会報告
- お問合せ

農事組合法人 うもれ木の郷
〒758-0613
山口県阿武郡阿武町宇生賀911
TEL:08388-5-5000

Copyright(c) 2010 うもれ木の郷 All Rights Reserved.

(最終アクセス 2013/01/25)

山口県庁ホームページ

http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/press/201206/021886.html

[検索](#) [検索の仕方](#) | [文字拡大について](#)

山口県

[くらしの情報](#)
[ビジネスと産業](#)
[山口の魅力と観光](#)
[県政情報](#)
[組織から探す](#)
[サイトマップ](#)

[トップページ](#) > [報道発表](#) > [2012年6月](#) > 資料

報道発表

※ 原則として発表時の情報を掲載しています。
 日付にご注意ください。

戻る

農事組合法人うもれ木の郷と山口大学剣道部学生が交流活動を実施

平成24年(2012年)6月 8日

1 概要

農事組合法人うもれ木の郷では、農業者の高齢化や担い手不足に対する新たな取組みとして、山口大学生との交流活動を実施します。

この度は、山口大学剣道部の学生31人を招き、農作業体験や地域住民との交流会、農家民泊等を通して、若者への農業・農村の理解促進や将来的なファンづくりの契機とするとともに、若者の柔軟な発想を地域づくりに活かすことを目的としています。

2 開催日時

平成24年6月16日(土曜日)午前10時30分から6月17日(日曜日)正午まで

※ 雨天決行

※ 取材対応は、6月16日(土曜日)午前10時30分から正午まで

3 主催

(農)うもれ木の郷(代表理事:山本 勉生)

4 内容

(1) 10:30～ 開会行事親水公園(阿武町大字宇生賀)※7参考の会場位置図参照

(2) 10:45～ 農作業体験(水田除草作業):(農)うもれ木の郷水田

5 参加者

法人構成員、山口大学剣道部学生・教職員、関係機関職員等 約70人

6 問い合わせ先

(農)うもれ木の郷 担当 田中(電話:08388-5-5000)

阿武町経済課 担当 小田(電話:08388-2-3114)

山口県萩農林事務所農業部 担当 阿字雄(電話:0838-22-0158)

[くらしの情報](#)
[ビジネスと産業](#)
[山口の魅力と観光](#)
[県政情報](#)
[組織から探す](#)

[このサイトの利用について](#) | [個人情報取り扱い](#) | [ご意見・お問合せ](#) |

〒753-8501 山口県山口市滝町1番1号 電話:083-922-3111(代表) [アクセス](#)

Copyright © 1996-2013 Yamaguchi Prefecture. All Rights Reserved.

[検索](#) [検索の仕方](#) | [文字拡大について](#)

山口県
くらしの情報
ビジネスと産業
山口の魅力と観光
県政情報
組織から探す
サイトマップ

[トップページ](#) > [報道発表](#) > [2012年6月](#) > [資料](#)

7 参考

(1) 農事組合法人うまれ木の郷(代表理事: 山本 勉生)
 阿武町宇生賀を拠点に、4集落の農地を守るため、平成9年2月設立された農事組合法人。構成農家戸数は73戸、経営面積は約85ヘクタール。主な経営品目は、水稲、大豆、施設野菜等。

(2) 会場位置図

お問い合わせ先

萩農林事務所
 Mail: a17111@pref.yamaguchi.lg.jp

[戻る](#)

[↑ このページの先頭へ](#)

[くらしの情報](#)
[ビジネスと産業](#)
[山口の魅力と観光](#)
[県政情報](#)
[組織から探す](#)

[このサイトの利用について](#) | [個人情報の取り扱い](#) | [ご意見・お問合せ](#) |

〒753-8501 山口県山口市滝町1番1号 電話:083-922-3111(代表) [アクセス](#)

Copyright © 1996-2013 Yamaguchi Prefecture. All Rights Reserved.

(最終アクセス 2013/01/25)

阿武町役場ホームページ

<http://www.town.abu.lg.jp/sys/topics/detail.php?detailID=1066>



“エコ100米”づくりに山大剣道部一役

うまれ木の郷と山口大学剣道部が草取りで交流

アクセスカウント: 337

トピックス

6/16(土)~17(日)、農事組合法人うまれ木の郷では、農業者の高齢化や担い手不足に対する新たな取組みとして、山口大学生との交流活動を行いました。山口大学剣道部の学生31人を招き、農作業体験や地域住民との交流会、農家民泊等を通じ、若者への農業・農村の理解促進や将来的なファンづくりの契機とするとともに、若者の柔軟な発想を地域づくりに活かすことを目的としています。

うまれ木の郷の米は、農薬を使わない、“エコ100米”を作っており、田の雑草を地道に手で引き抜く作業が欠かせません。重労働です。そこで、山大剣道部は、足腰の鍛錬を兼ねてやってくれました。山口大学剣道部のみなさん、二日間お疲れ様でした。



オープニングセレモニーで主将の挨拶

この様子は、6/19の夕方6時15分頃から、YAB山口朝日放送の「Jちゃんやまぐち」で放送されました。切り口は、「高齢化社会を考える ～担い手不足の現場に頼む力～」。また、地元秋ケーブルテレビでも、6/20の「i!ネットあぶ」でも、その交流の様子が放送されました。二日のふれ合いでしたが、帰りのセレモニーでは、涙のシーンもありました。

[リストへ戻る](#)

阿武町役場

〒759-3622山口県阿武郡阿武町大字奈古2636番地
TEL08388-2-3111 FAX08388-2-2090
Email:kikaku@town.abu.lg.jp

Copyright (C)1996-2010 Town Abu. All Rights Reserved.



雨の中、地元の人と一斉に草取り開始



地元の集会所での交流会、歌も飛び出て、盛り上がっています。

[リストへ戻る](#)

阿武町役場

〒759-3622山口県阿武郡阿武町大字奈古2636番地
TEL08388-2-3111 FAX08388-2-2090
Email:kikaku@town.abu.lg.jp

Copyright (C)1996-2010 Town Abu. All Rights Reserved.



アトラクションで、剣道の“形”を見せてくれた女学生剣士



二日目、作業を終えて、全員で記念撮影

[リストへ戻る](#)

阿武町役場

〒759-3622山口県阿武郡阿武町大字奈古2636番地
TEL08388-2-3111 FAX08388-2-2090
Email:kikaku@town.abu.lg.jp

Copyright (C)1996-2010 Town Abu. All Rights Reserved.

(最終アクセス 2013/01/25)

やまぐち農林水産ねっとホームページ

http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/search/html/I004757.html

やまぐち農林水産ねっと



サイト内情報検索

検索について

検索

山口県農林水産情報システム

TOP

地産・地消

知る

食べる

楽しむ

就業・担い手情報

技術・経営情報

施策情報

その他メニュー

うまれ木の郷と山大学生が交流

(農)うまれ木の郷と山口大学剣道部学生が交流活動を実施

分類：新着ニュース, 農業

登録日：平成24年6月22日 | 萩農林事務所農業部

6月16日(土)と17日(日)、阿武町宇生賀地区で農事組合法人うまれ木の郷と山口大学剣道部学生との交流活動が行われました。この度は、剣道部の31名を招き、農作業体験や地域住民との交流会、農家民泊等を通じて、若者への農業・農村の理解促進や将来的なファンづくりの契機とするとともに、若者の柔軟な発想を地域づくりに活かすことを目的に行いました。

うまれ木の郷では、消費者のニーズに応えるためJAS米やエコ100米(無化学農薬、無化学肥料)を栽培していますが、この除草が大変な作業となっています。このため、日頃、武道で心身共に鍛えている剣道部の学生達に応援を依頼しました。

学生のほとんどは、田んぼに入るのが初めてでしたが、農家から草の見分け方や除草方法のコツを教えてもらい、泥だらけになりながら除草作業を行いました。作業中には掛け声や歌が出るなど、日頃、鍛えた精神力と体力で、1ha余りの水田の除草作業を行いました。

夜は、3カ所の集会所に分かれ、宇生賀地区の女性グループ「四つ葉サークル」が用意した地元の食材をふんだんに使った夕食を取りながら地元住民との懇親を深めた後、8戸の法人構成員宅に分かれて民泊し、ご主人を囲み人生論などを語り有意義な夜のひとときを過ごしました。

萩農林事務所農業部としても、今後も関係機関とも連携しながら農業の担い手対策等を支援していくこととしています。



除草作業の様子



除草作業の様子

問合せ先

メール:a171111@pref.yamaguchi.lg.jp 電話:0838-22-0158

▲もどる

JA あぶらんど萩ホームページ

http://www.abrand.jp/topics/2012/6/20120616.htm

(農)うもれ木の郷・山口大学剣道部学生交流活動 農作業体験や地域住民との交流会



(農)うもれ木の郷と山口大学剣道部学生が、農作業体験や地域住民との交流会、農家民泊等を通じて交流を図りました。(農)うもれ木の郷では消費者のニーズに応えるためJAS有機米・エコ100米の栽培を行っているため機械化のできない重労働な水田除草作業を、学生達が組合員に教わりながら体験しました。

相互扶助の精神により、若い力を借り、また、大学活動の支援をすることで助け合うシステムは、県内でも初の試みで、山本勉生組合長は、「現在我々の地域では高齢化が進み、働き手も少なく苦しんでいる。このようなシステムが大きく取り入れられ、他地域にも広まって欲しい。」と話されました。



あぶらんど萩農業協同組合 〒758-0041 山口県萩市大字江向431-2 TEL.0838-22-3535 FAX.0838-22-6195
 サイト内で使用されているテキスト、画像などの無断使用・転載を禁じます。
 Copyright (c) 2007-2012 Abbrand-Hagi Agricultural Cooperatives. All rights reserved.

(最終アクセス 2013/01/25)

やまぐち中山間地域づくり支援サイトホームページ

http://www.yamaguchi-chusankan.jp/list-wakamono.html

やまぐちの“がんばる”地域を応援!
サイト内検索

やまぐち中山間地域づくり支援サイト

中山間地域の概要

中山間地域の支援制度

がんばる地域のご紹介
中山間地域振興ライブラリー

みんなでチャレンジ!
「地域の夢プラン」づくり

中山間地域を元気にする
提案大募集!

[文字拡大について](#)

マップから地域を探す

中山間地域元気創出若者活動支援事業の取組紹介

[お問い合わせ](#)

[プライバシーポリシー](#)

[リンク集\(県内市町の取組を紹介したHP・ブログなど\)](#)

[サイトの利用について](#)

地域にしてみてください!
やまぐちスローツーリズムweb

[トップページ](#) > 『中山間地域元気創出若者活動支援事業』の取組を紹介します

『中山間地域元気創出若者活動支援事業』の取組を紹介します

中山間地域における多様な課題や地元ニーズに対応するため、「中山間地域元気創出若者活動支援事業」により、県内の大学生等から、中山間地域が元気になるような提案を募集し、大学生等による自発的な地域づくりの実践活動を支援しています。

平成24年度「中山間地域元気創出若者活動支援事業」企画提案の採択状況

大学等名	グループ名	企画名称	活動地域	企画概要	参加予定人数
山口大学	山口大学経済学部やましろ地域応援サポーター	体験型教育旅行・交流事業等による地域活性化に関する支援事業	岩国市やましろ地域	■体験型教育旅行の受入や体験交流イベントのサポートなど、地域の交流活動の推進に係る支援	20人
山口大学	生活空間デザイン学研究室	下関市菊川町における地域資源を活用した「地域こども塾」の協同実施及び竹炭づくり	下関市菊川町豊東地域	■田舎体験イベントや地域に繁茂する竹を有効活用する取組など、地域おこし活動の推進に係る支援	18人
山口大学医学部	錦町宇佐地区と交流グループ	山口大学学生等による錦町宇佐地区健康づくり推進事業	岩国市錦町宇佐地域	■高齢者の生活支援や健康づくりの推進など、高齢者が安心して生活できる環境整備に係る支援	12人
山口大学	山口大学創造部	農作業体験や地域住民との交流を通じた地域の魅力発見活動	阿武町宇生賀地域	■有機栽培米圃場での農作業支援や地域住民との交流活動を通じた就農や定住に向けた環境整備に係る支援	31人
山口県立大学	山口県立大学看護栄養学部附属理学研究室	仁保地区の農産物を生かした乾物のレシピ提案と食	山口市仁保地域	■規格外の農産物等を活用した乾物商品の開発やレシピづくりなど、地域資源の有	5人

[↑ ページ先頭へ](#)

ホーム [お問い合わせ](#)

やまぐち中山間地域づくりサポートセンター

〒753-8502 山口市桜島3丁目2-1 電話: 083-928-3405 FAX: 083-928-5622

メールアドレス: chusankan@yamaguchi-pu.ac.jp

山口県地域振興部中山間地域づくり推進室

〒753-8501 山口市滝町1-1 電話: 083-933-2549 FAX: 083-933-2559

メールアドレス: a123003@pref.yamaguchi.lg.jp

(最終アクセス 2013/01/25)

79

広報あぶ 2012年7月 (No. 493)



最近の若者は、「大変ようやりました!」

農事組合法人うもれ木の郷で、山口大学剣道部が草引きボランティアを実施 6月16・17日

山口県の米所でもある、福賀地区宇生賀にある農事組合法人うもれ木の郷で6月16・17日の2日間、山口大学剣道部による草引きボランティアが行われました。「エコ100米は完全有機農法で育てるお米。農薬を一切使わないから、水田には雑草が生える。この草引きもせーんぶ人の手でやらんやいけんよ。それが大変でねえ、どねえかならんかと思っ」と、山本勉生組代表理事。

うもれ木の郷の組合員総数は73戸113人。その平均年齢は68歳と高齢化しており、町内の他の法人同様、高齢化と後継者不足が課題となっています。その中で組合の生産する「エコ100米」は、近年の消費者ニーズに合わせてチャレンジした「無農薬・無化学肥料」で育てる米。これを育てる田は5haあり、そこに生えた雑草の草引きは組合員にとって重労働となっていました。

そこで白羽の矢が立ったのが、若く体育会精神の溢れる山口大学剣道部。「大学生は、実はなかなか地域と関わる機会が少ないんです。護国と友人と過ごす時間で、一日は完結してしまうことが多い。学生はこれから社会へ飛び出して行く人財です。その彼らに、地域との関わり・人との関わりを体験できるチャンスが必要だと考えていました。」と、辻多聞山口大学剣道部部長。

うもれ木の郷の抱える「担い手不足」という課題と、大学生の抱える地域とのつながり不足という課題がマッチングして、この度のボランティアが実現しました。

懇親会

歌や踊りて盛り上げる!

1日目

あなたは見え足踏しちよるねえ

僕もがんばるぞ!

やさしい声かけ

地元の人の話に耳を傾ける学生たち

心のコもったおいしいご飯

生まれる会場の一体感

本格的な形を披露

(農)うもれ木の郷
福賀地区宇生賀の農業者で構成され、「地域の農地を地域で守る」ことを目的に平成9年に農事組合法人として設立。全体で85haの農地を管理し、水稻をはじめすいかや大豆、ほうれん草などの農作物を栽培している。



今 回のボランティアに参加した山大剣道部の学生は31人。学部学科の違う1〜4年生で、週5日毎回2時間の練習を行っています。この度、社部長の「参加してみたいか」との問いかけにも、全員が進んで参加しました。

こ の気前の良さとほらほらに、いざ草引き作業になると、「田んぼに入ったことがない。アメンボを見たことがない」という学生もいる上、慣れないぬかるみの中での作業に各所で悲鳴も。しかし、組合員に習いながら、腰を曲げた体勢での作業を明るく・我慢強く行いました。

組 合の歓迎はもちろん真心のおもてなしとあったかい食事。四つ葉グループのみなさんが腕によりをかけて、お腹へこべこの学生の胃袋を満たそうと相当量の料理を用意しましたが、ペロッとたいらげてしまふその様子に、「食べる食べる」と聞いていたけど、まさかこれほどとは」と驚きの声も聞かれました。

夜 の地域住民との懇親会は、3箇所に会場を分けて開催。各集会所ではそれぞれの色を出しながら和気あいあいと懇親が図られました。学生からは剣道の形が披露され、凜とした空気と技に会場は大盛り上がり。学生にも住民にも忘れられない夜となりました。

翌 日も元気に作業をこなした学生たち。この度の草引きボランティアは、子や孫のような世代の大学生と、阿武町の農業の主力であるお年寄り、また地域住民が一体となり相互の交流が図られ、感動と新たな絆が生まれた2日間となりました。

本当に助かった!
 (農)うまれ木の郷 山本 勉生 代表理事
 作業するのに手間が(ほしい)、頑張れるのはどこか?と考えた時、大学の運動部だ!と思った。それから縁が繋がって今回来てくれた山大剣道部のみんなは、よく作業してくれて本当に助かりました。ぜひ来年も出来れば来てほしい!

最近の若者は...と、あまり良くない話をする風潮もあるが、そんなことはない。最近の若者は、「大変ようやりました!!」

「感謝」の一言!
 山口大学剣道部 辻 多聞 部長
 感謝の一言に尽きます! 学生にとっても非常に良い思い出となりました。この体験をとおして、自然の大切さ・食の大切さ・人とのつながりの大切さを感じ、今後の人生に必ず生きる2日間としてくれることを期待しています。

地域の方々に温かく迎えていただき、本当にありがとうございました。

苦しみも美味に
 (農)うまれ木の郷 田中 敬雄 事務局長
 きつい農作業体験をとおして、「この苦しみがあるからあのおいしさがある」ことを学んでくれたと思います。

今回は、農作業体験・地域の人との交流をとおして学生たちも学びになる。そして地域も学生たちとの交流をとおして元気になる。そんなwin-winの関係が築けたのではないのでしょうか。

ごはんも豆腐もうまい!
 山口大学剣道部 佐野 淳也 主将
 農作業は初めてで、腰を曲げる体勢はきついし、足にきて大変でした。

けど、ごはんをいっぱい食べさせていただいてお腹いっぱい!どの料理も美味しかったです。特にうまれ木の郷で作られている豆腐が、本当に美味しかったです。

今回鍛えられた足腰を、剣道の踏み込みにいかします!



最初は余裕のVサイン



疲れて作業が遅く...なんかないもん!



お別れ



また帰っておいでねー!!



山口朝日放送—Jチャンやまぐち

2012年6月19日 18:15～放送



菽ケーブルネットワークー i i ネットあぶ

2012年6月20日放送





おわりに

富平 美波

エクステンションセンター センター長

地域を取り巻く環境は、少子高齢化の急激な進行、財政難等、さまざまな分野で厳しさを増しており、その中で持続可能な地域づくり・教育システムの構築が重要課題となっています。こうした時期にあって、山口大学もまた、地域社会の中における自らの役割を見据え、地域の要請に応えられる開かれた大学として、いっそう気を引き締めて進んで行かねばならぬ時だと強く感じております。エクステンションセンターは、2003年4月に開設され、約10年間、山口大学の社会貢献・地域連携を推進してまいりました。



地域連携活動の一環といたしまして、2012年3月、「熟議 in やまぐち」を山口大学の吉田キャンパスにて開催いたしました。その目的は、地域の課題を共に解決し、その活性化や新たな価値を創造するための第一歩を踏み出すことであり、「安心・安全」「農村の再生」「まちづくり」などのキーワードで「熟慮」や「議論」を深めました。当然ながら、地域の課題を考えるためには、キャンパス内で机上の空論を繰り返していても仕方ありません。現場に出て、何ができるかを考える「実践」が必要となります。

阿武町・宇生賀地域と山口大学剣道部との草引き交流は、「熟議」の次なるステップとしての「実践」にほかなりません。このたびは、阿武町・宇生賀という地域を舞台に、山口大学剣道部がお邪魔し、「安心・安全」の農作物づくりを通して、「農村の再生」「地域づくり」の実践の一場面に参加させていただきました。これらの活動は、微力ながらも学生たちのできることで、そして山口大学ができることを模索するプロセスであると思います。もちろん、「熟議」も「実践」も一過性のものでは何の効果もございません。頭と身体をフル稼働させながら地域と山口大学とのつながりを継続的に構築し、地域の抱える課題解決の一助となれればと願っております。

<編集後記>

朝目を覚まし、仕事に行き、食事をとり、夜布団で寝る、普段、人は何気なく生活しています。宝くじでも当たろうものなら、何気なくという感はないでしょうが、それこそまさに宝くじ、そんな何気なくなることなんて起こることはまずありません。ごく普通のごく当たり前の生活、しかしそんな当たり前のなかには、必ず人とのつながり（御縁）があります。人は一人では決して生きていくことはできません。

本書にも世代を超えたたくさんの方がいます。それぞれがいろいろなことを感じ、考え、皆さん素晴らしい表情で生きてらっしゃるのを、編集を通じて痛感いたしました。皆様のおかげで何気ない生活を送らせていただく喜びを、うもれ木の郷の皆様、本交流会の関係者の皆様、学生のみなさん、みんなで分かちあいたく思うしだいです。

（辻 多聞）

この交流活動は「中山間地域元気創出若者活動支援事業（山口県）」より助成いただきました

熟議 in やまぐち

うもれ木の郷と山口大学剣道部の交流活動 報告書

知恩

平成 25 年 2 月 28 日 発行

編 者 辻 多聞・辰己佳寿子
発 行 所 国立大学法人 山口大学エクステンションセンター
〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1
印 刷 所 有限会社 いづみプリンティング

ISBN978-4-9906598-1-3

「熟議 in やまぐち」は、山口大学
創基 200 周年記念事業の一つです



裏表紙の「氣」について
2012年3月17日「熟議 in やまぐち」における
丸本卓哉氏（山口大学学長）の書
元氣、活氣、熱氣を意味する

氣